

島根県邑智郡瑞穂町

沢陸遺跡発掘調査報告書

農村公園整備に伴う発掘調査



1998年10月

島根県邑智郡瑞穂町教育委員会

序

瑞穂町は遺跡の町といわれるよう、多くの埋蔵文化財が町内各地に点在しております。これらの貴重な文化財の保存保護、活用のため、分布調査や発掘調査を実施しているところであります。

この度、農村公園整備工事に伴い、建設予定地内の沢陸遺跡の調査を実施いたしました。調査の結果、弥生時代中期の住居跡をはじめとして貴重な資料を得ることができました。

この報告書は、その調査結果をまとめたものであり、広く各方面でご活用いただければ幸いであります。

なお、調査に当たりご指導いただいた広島大学文学部河瀬正利先生、島根県文化財保護指導委員吉川正氏、島根県教育庁文化財課をはじめ関係各位に対し深く感謝申し上げる次第であります。

平成10年10月

瑞穂町教育委員会

教育長 三宅 正隆

例　　言

1. 本書は島根県邑智郡瑞穂町大字淀原676番地外における農村公園整備に伴い、平成9年5月28日から11月30日にわたって実施した沢陸遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は瑞穂町役場建設課から委託を受けて瑞穂町教育委員会が実施した。
3. 本報告書の執筆は藤田睦弘が行った。
4. 本書掲載の図面作図は、森岡弘典及び藤田睦弘が行い、図の添書は市山眞由美が行った。
5. 本書掲載の遺構の撮影は森岡弘典及び藤田睦弘が行い、空中写真及び遺物の撮影は古川健二が行った。
6. 本書に掲載した地形図(第2図)は建設省国土地理院の承認を得て(承認番号平成7年度第276号)同院発行の25,000分の1を複製した瑞穂町全図を使用したものである。
7. 本書掲載の地形図に表示したX軸、Y軸は国土調査法による第III座標系の軸方向である。地形測量図、遺構実測図の矢印は真北を示している。
8. 本書で使用した遺構、遺物の略号は次のとおりである。
SI-竪穴住居、SD-溝状遺構、SK-土坑、SA-柵列状遺構、SX-性格不明の遺構、
SP・P-ピット、J-繩文土器、Y-弥生土器、SU-須恵器、H-土師器、ST-石器
9. 出土遺物は瑞穂町教育委員会で保管している。
10. 調査用基準杭の設置を測地技研株式会社に委託した。

沢陸遺跡発掘調査報告書

目 次

序	頁
I. 調査に至る経緯	1
II. 沢陸遺跡の位置と環境	3
III. 調査の概要	6
IV. まとめ	42

図版目次

図版第1	a. 調査区企景(上空から) b. 調査区遠景(北東から) c. 調査区近景(南から)
図版第2	a. SI-01検出状況(東から) b. 同壁溝中央土坑検出状況(南から) c. 同中央土坑断面(東から)
図版第3	a. SI-01完掘状況(東から) b. 同右器出土状況 c. 同高坏出土状況
図版第4	a. SI-02検出状況(北から) b. 同中央土坑完掘状況(東から) c. 同完掘状況(北から)
図版第5	a. SD-05・SK-06検山状況(東から) b. SI-02・SD-05・SK-06完掘状況(東から) c. SK-01検山状況(北から)
図版第6	a. SK-01断面(南から) b. 同完掘状況(北から) c. SK-03・SD-01検出状況(東から)
図版第7	a. SK-03・SD-01完掘状況(西から) b. SD-02検山状況(北西から) c. SD-02完掘状況(北東から)
図版第8	a. SD-03検出状況(北から) b. SB-01・SD-03完掘状況(北から) c. SB-01柱穴断面(1)(南から)
図版第9	a. SB-01柱穴断面(2)(南から) b. SB-02・SD-04完掘状況(北東から) c. SB-03完掘状況(西から)
図版第10	a. 土坑群・SD-06検出状況(南東から) b. 土坑群遺物出土状況(1)(同) c. 同(2)(同)
図版第11	a. 土坑群長頸甌出土状況 b. 同刀子出土状況 c. 同完掘状況(南東から)
図版第12	a. 鉄滓出土状況 b. SP-01・SP-02完掘状況(北から) c. SP-03遺物出土状況
図版第13	SA-01完掘状況(南東から) b. SA-02完掘状況(東から) c. SK-02検出状況(北から)
図版第14	a. SK-02断面(南西から) b. SK-02完掘状況(北東から) c. SK-04・SK-05検出状況(北東から)
図版第15	a. SK-04断面(東から) b. SK-05断面(南から) c. SK-04・SK-05完掘状況(北東から)
図版第16	a. SK-06断面(北から) b. SD-06検出状況(東から) c. SD-06完掘状況(西から)
図版第17	a. SX-01完掘状況(東から) b. SX-02完掘状況(南東から) c. SI-01・SI-02周辺(上空から)
図版第18	a. SB-01・SD-02・SD-03周辺(上空から) b. SB-01～SB-03周辺(上空から) c. 造構完掘状況(上空から)
図版第19	a. 繩文土器 b. SI-01出土弥生土器(高坏) c. SI-01出土弥生土器(外面) d. 同(内面) e. SI-01出土石器 f. SI-01川土石器片 g. 同
図版第20	a. 造構に伴わない弥生土器 b. SK-03出土弥生土器 c. 造構に伴わない弥生土器 d. 同 e. 同 f. SB-01出土土器 g. 同 h. SB-02出土土器
図版第21	a. SD-03出土土器 b. SD-04川土土器 c. 土坑群出土土器 d. 同 e. 同 f. 同 g. 同 h. 同
図版第22	a. 土坑群出土土器 b. 同 c. 同 d. 同 e. 同 f. 同 g. 同 h. 同
図版第23	a. 土坑群出土土器 b. 同 c. 同 d. 土坑群出土刀子 c. SK-07出土土器 f. 同出土鉄滓 g. SP-01出土土器 h. SP-03出土土器
図版第24	a. 造構に伴わない土器 b. 同 c. 同 d. 同 e. 同 f. 同 g. 同 h. 同
図版第25	a. 造構に伴わない土器 b. 包含層出土土器 c. 発掘調査の様子 d. 同 e. 遺跡説明会の様子 f. 同

挿図目次

第1図	瑞穂町域と沢陸遺跡位置図	2
第2図	沢陸遺跡周辺の遺跡分布図	5
第3図	縄文土器実測図	6
第4図	発掘調査前地形測量図	7 ~ 8
第5図	発掘調査後地形測量図・遺構配置図	9 ~ 10
第6図	SI-01実測図	11
第7図	SI-01出土遺物実測図(1)	12
第8図	SI-01出土遺物実測図(2)	13
第9図	SI-02・SD-05・SP-01・SP-02実測図	13
第10図	SK-01・SK-03実測図	14
第11図	SK-03出土遺物実測図	14
第12図	SD-02実測図	15
第13図	遺構に伴わない弥生土器実測図(1)	15
第14図	遺構に伴わない弥生土器実測図(2)	16
第15図	SB-01出土遺物実測図	17
第16図	SB-02出土遺物実測図	18
第17図	SD-03出土遺物実測図	18
第18図	SB-01・SD-03実測図	19 ~ 20
第19図	SB-02・SB-03・SD-04実測図	21 ~ 22
第20図	SD-04出土遺物実測図	23
第21図	土坑群実測図	23
第22図	土坑群出土遺物実測図(1)	24
第23図	土坑群出土遺物実測図(2)	25
第24図	土坑群出土遺物実測図(3)	26
第25図	SK-07実測図	26
第26図	SK-07山上遺物実測図	26
第27図	ピット出土遺物実測図	27
第28図	遺構に伴わない遺物実測図(1)	27
第29図	遺構に伴わない遺物実測図(2)	28
第30図	遺構に伴わない遺物実測図(3)	29
第31図	遺構に伴わない遺物実測図(4)	30
第32図	SD-01・SD-06実測図	38
第33図	SA-01・SX-01実測図	39 ~ 40
第34図	SA-02実測図	39 ~ 40
第35図	土坑実測図	39 ~ 40
第36図	SX-02実測図	41
第37図	包含層出土石器実測図	41

表 目 次

第1表	弥生土器観察表	16
第2表	須恵器観察表(1)	31
第3表	須恵器観察表(2)	32
第4表	須恵器観察表(3)	33
第5表	須恵器観察表(4)	34
第6表	須恵器観察表(5)	35
第7表	須恵器観察表(6)	36
第8表	土師器観察表	36

I. 調査に至る経緯

今回発掘調査を行った沢陸遺跡は、島根県邑智郡瑞穂町大字淀原676番地外に所在する遺跡である。

本町は、総合保養地域整備法に基づく鳥取中央リゾート構想特定地域として設定されており、その特定地域のうち特に重点整備地区として広域的な観点からそれぞれ特色ある7地区を設定し、瑞穂中央地域開発構想として整備計画を立てている。

本遺跡周辺は、その構想の中心部にあたり、都市と農村の交流促進のため農村公園の整備が計画された。工事に先立ち、担当課から瑞穂町教育委員会に遺跡の有無について照会があり、当該区域内には沢陸遺跡が含まれることを回答し、その取り扱いについて協議を行った。協議の結果、本遺跡が計画の中心部に位置していること等から、発掘調査を行うこともやむを得ないと判断し、平成9年5月28日から11月30日まで調査を行った。

調査主体 瑞穂町教育委員会

調査員 森岡弘典（瑞穂町教育委員会文化財係長）

藤田睦弘（瑞穂町教育委員会主幹）

調査指導 河瀬正利（広島大学文学部教授）

吉川 正（島根県文化財保護指導委員）

島根県教育委員会文化財課

事務局 三宅正隆（瑞穂町教育委員会教育長）

河野義則（瑞穂町教育委員会教育課長）

野田律子（瑞穂町教育委員会教育課長補佐）

平川 進（瑞穂町教育委員会教育課長補佐）

発掘調査 石川義明 今田徳朗 上川義夫 植田義雄 内田実 漆谷勉 上田弥生 国信勇之進
佐藤三郎 洲浜軍太郎 高川秀夫 高梨数男 出店春雄 戸津川里美 戸津川孝夫
野田正治 日高一人 日高武司 日高政雄 久光花枝 平川正寅 古川健二 松島利郎
森田ユキエ

整理作業 市山眞由美（瑞穂町教育委員会）

なお、発掘調査を円滑に進めるため上田英至氏（瑞穂町役場建設課）には多大なご配慮とご協力をいただいた。また、本書の作成については桑野直夫氏、木邑恵氏、富永公美氏、山本史朗氏、三上憲昭氏、井坂猛氏、奥田真隆氏（以上瑞穂町文化財保護審議会委員）、牧田公平氏（邑智町教育委員会）、原拓矢氏（石見町教育委員会）、角矢永嗣氏（羽須美村教育委員会）、大下裕史氏（大朝町教育委員会）からご教示をいただいた。記して謝意を示したい。



第1図 瑞穂町域と沢陸遺跡位置図

II. 沢陸遺跡の位置と環境

島根県邑智郡瑞穂町は、島根県中央部の邑智郡南部に位置する。南西には中国育梁山地が連なり、山地を境として広島県と接している。町域のほぼ中央を出羽川が東流し、その出羽川に向かって亀谷川、岩屋川、円ノ板川などの支流が注いでいる。出羽川とその支流の流域には沖積地や河岸段丘が形成されている。特に瑞穂町田所から出羽にかけての出羽川両岸に河岸段丘が発達し、段丘の間には出羽盆地が広がっている。中でも出羽盆地中央付近には規模の大きな河岸段丘が形成され、段丘上の平坦部には集落が作られている。

沢陸遺跡は出羽川南側の河岸段丘上に位置し、南側に中國山地から派生する尾根が迫っている。また、遺跡の東側段丘下には小河川があり、その周辺に僅かながらまとまった水田が広がっている。

瑞穂町はすでに遺跡分布調査が終了しており、分布調査後明らかになったものを含め550カ所以上の遺跡が確認されている。その半数以上の約300カ所が製鉄関連遺跡であるが、横道遺跡をはじめとして旧石器時代から歴史時代にいたる幅広い時代の遺跡の存在が知られている。

旧石器時代の遺跡は、横道遺跡（高見）^①、荒瀬遺跡（岩屋）^②及び堀田上遺跡（市木）^③の3カ所が知られており、約2万年以前から町域に人々が生活し始めたことを物語っている。

続く縄文時代の遺跡としては、横道遺跡、長尾原遺跡（第2図）、大畑遺跡（上亀谷）及び大字根遺跡（伏谷）が知られていたが、近年行われた中国横断自動車道広島浜田線建設に伴う発掘調査により新たに郷路橋遺跡（市木）、今佐屋山遺跡（市木）^④、堀田上遺跡の存在が明らかになった。このほか、1992年に調査された川ノ免遺跡（第2図）、1992年から1994年に調査された野田西遺跡（第2図）からも押型文土器が出土している。さらに1993年に調査された道城遺跡（上亀谷）からは縄文時代後期の土器が出土している。

弥生時代では、川ノ免遺跡、淀原遺跡、順庵原遺跡、牛塚原遺跡、堀田上遺跡等からは弥生時代前期から中期の土器が出土しており、山門地域でも弥生前期から農耕が始まっていたことを示している。この時代のものと確認された遺構は、中期の住店跡が人金谷遺跡（上亀谷）及び順庵原遺跡（第2図）で1棟、長尾原遺跡で2棟確認されているにすぎない。弥生時代後半になると遺跡数も増加し、出土遺物も豊富になってくる。集落跡としては、出羽川流域の河岸段丘上に川ノ免遺跡、長尾原遺跡、順庵原遺跡、野田西遺跡が調査により確認されている。この時代になると、人口も増え、それを支える農耕も町域全域で広く行われていたと考えられる。

そして、弥生時代終末期になると共同体の首長墓と考えられる順庵原1号墓（第2図）及び御華山墳墓（第2図）が築造される。順庵原1号墓は出羽川南側の河岸段丘上にあり、わが国で初めての四隅突山型墳墓の調査事例となった。

御華山墳墓は出羽盆地の北側の河岸段丘上にあり、長尾原遺跡とは出羽川を挟んだ北側に位置している。

古墳時代の遺跡のうち、集落跡としては狼原遺跡（和田）、宇山遺跡（上原）、川ノ免遺跡、長尾原遺跡、順庵原遺跡及び今佐屋山遺跡などがある。このうち、1968年に調査された長尾原遺跡からは竪穴住居跡や土坑墓が検出され、さらに鉄に関する遺構が発見された。また、1989年に調査された今佐屋山遺跡からも竪穴住居跡と製鉄遺構がみつかっており、製鉄・鋳造が古墳時代後半には始

まっていたことを示している。

古墳は20カ所以上が確認されているが、その大部分は終末期に築造された小円墳と横穴である。前半期の古墳と思われるには段ノ原古墳（高見）、淀川古墳群（第2図）及び御草山古墳群がある。

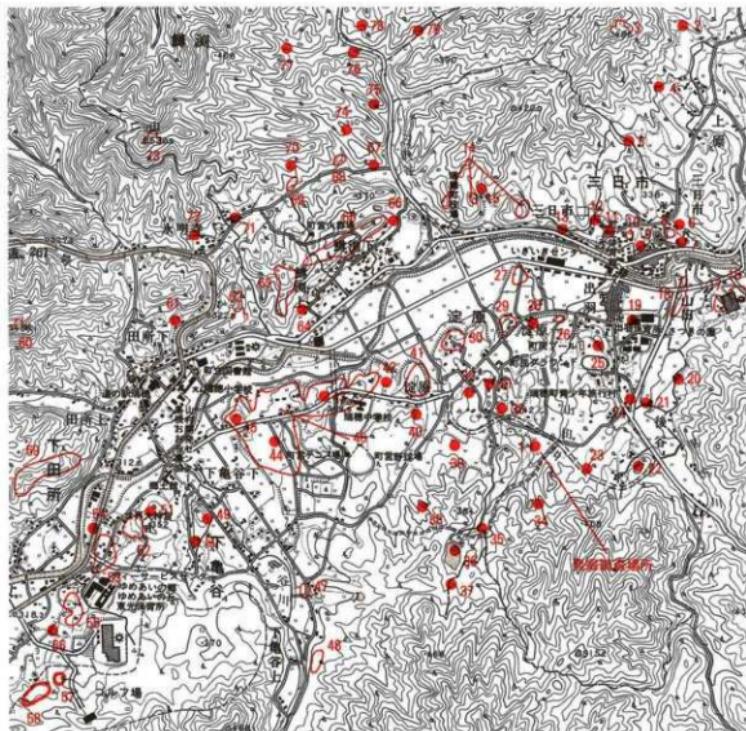
奈良時代の遺跡のうち、発掘調査により住居跡が検出されたものに川ノ免遺跡、野田西遺跡及び大金谷遺跡がある。検出した住居跡のはほとんどに煙道を備えたつくり付けのカマドが設けられている。このほか、古墳時代から奈良、平安時代にわたる須恵器の窯跡も数多く確認されている。久永古窯跡群はその代表的な遺跡で、島根県内有数の須恵器産地であったといえる。

中近世になると、山城や砦跡、そして多くの製鉄遺跡が確認されている。なかでも鎌倉時代に宮永（山科）氏が築城したと伝えられ、出羽盆地を北から見おろす二ツ山城は規模、構造とも県内では屈指の遺跡である。また、瑞穂町のシンボルとして広く町民に知られている。

また、中近世の製鉄遺跡は300カ所近くが確認され、製鉄が盛んに行われていたことをあらわしている。

註

- (1)河瀬正利『横道遺跡－詳細分布調査報告書』瑞穂町教育委員会 1983年。
- (2)吉川 正「瑞穂町の遺跡」『瑞穂町誌』第3集 瑞穂町教育委員会 1976年。
- (3)島根県教育委員会『主要地方道浜田八重河原線特殊改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』1991年3月。
- (4)(2)と同じ。
- (5)島根県教育委員会『中国横断自動車道広島浜田線予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅲ』1991年3月。
- (6)島根県教育委員会『中国横断自動車道広島浜田線予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅳ』1992年3月。
- (7)K3と同じ。
- (8)瑞穂町教育委員会『川ノ免遺跡発掘調査報告書』1995年3月。
- (9)瑞穂町教育委員会『いにしえの瑞穂』1995年3月。
- (10)同じ。
- (11)瑞穂町教育委員会『脚尾原遺跡発掘調査概要書』1995年9月。
- (12)瑞穂町教育委員会『長尾原遺跡発掘調査報告書』1994年3月。
- (13)同じ。
- (14)瑞穂町教育委員会『長尾原遺跡発掘調査概要書』1995年10月。
- (15)同じ。
- (16)同じ。
- (17)東森市出版『四隅突出型埴丘墓』ニューサイエンス社 1985年。
- (18)瑞穂町教育委員会『御草山圓生式埴墓調査概要』1969年2月。
- (19)島根県川本農林土木事務所『農面道路新設に伴う長尾原遺跡と長尾原一号墳調査概要』1969年2月
- (20)同じ。
- (21)同じ。
- (22)同じ。



第2図 沢陸遺跡周辺の遺跡分布図 (1:25000)

- | | | | | |
|------------|---------------|-------------|------------|-------------|
| 1. 沢陸遺跡 | 17. 川ノ先遺跡 | 33. 秋江瓦窯跡 | 50. 牛市原遺跡 | 67. 馬場ヶ谷A遺跡 |
| 2. 宇山人遺跡 | 18. 麻光坊遺跡 | 34. 清水ヶ谷瓦窯跡 | 51. 地蔵院跡 | 68. 馬場ヶ谷B遺跡 |
| 3. 毛利跡 | (無地城跡) | 35. 大屋下剣跡 | 52. 鶴鹿原A遺跡 | 69. 清水ヶ谷遺跡 |
| 4. 宇山窓跡 | 19. 出羽代官所跡 | 36. 波内大堤剣跡 | 53. 鶴鹿原B遺跡 | 70. 清水ヶ谷黒跡 |
| 5. 梶谷遺跡 | 20. 小谷遺跡 | 37. 鐵輪穴遺跡 | 54. 鶴鹿原墳墓群 | 71. 水町寺跡 |
| 6. 大畑瓦窯跡 | 21. 納屋内遺跡 | 38. 江迫遺跡 | 55. 出張遺跡 | 72. 鶴鹿原跡 |
| 7. 七神社社務所裏 | 22. 光明坊2号間歩 | 39. 江迫縫穴群 | 56. 正仏遺跡 | 73. 二山城跡 |
| 8. 石棺群跡 | 23. 光明坊1号間歩 | 40. 板垣瀬瓦窯跡 | 57. 野田西遺跡 | 74. 馬場ヶ谷窓跡 |
| 9. 宮ヶ谷遺跡 | 24. 稲荷社跡 | 41. 若林遺跡 | 58. 野田西遺跡 | 75. カニケ追遺跡 |
| 10. 阿勢穴窓跡 | 25. 斎藤村グランド窓跡 | 42. 道場遺跡 | 59. 南古墳群 | 76. 定入窓跡 |
| 11. 善智寺新道跡 | 26. 福音寺跡 | 43. 長尾原駒跡 | 60. 本城跡 | 77. 桂ヶ谷窓跡 |
| 12. 犬池遺跡 | 27. 小船堂遺跡 | 44. 長尾原B古墳 | 61. 地盤構穴 | 78. 定入遺跡 |
| 13. 大西瓦窯跡 | 28. 高見屋桃瓦窯跡 | 45. 長尾原A古墳群 | 62. 副城跡 | |
| 14. 萩田古墳群 | 29. オセド遺跡 | 46. 長尾原遺跡 | 63. 御幸山古墳群 | |
| 15. 石井追窓跡 | 30. 波原遺跡 | 47. 彦谷跡 | 64. 竹前遺跡 | |
| 16. 滑遺跡 | 31. 波原古墳 | 48. 彦谷古墳群 | 65. 鶴鹿原墳群 | |
| | 32. 前曾根瓦窯跡 | 49. 亀谷八幡宮跡 | 66. 原下遺跡 | 79. 上宮跡跡 |

III. 調査の概要

1. 調査区の概要

沢跡周辺は、近世の砂鉄採取のため大規模に地形が改変されている。また、近世の地形改変を受けなかった部分についても、昭和30年代に行われた草地造成工事により、地形が改変されている。

調査は、まず地形の改変を受けていない部分に16カ所の試掘区を設定して試掘調査を行った。試掘調査の結果、かつての草刈り場で現在植林されている平坦面に遺構存在の可能性が高いと判断し、その平坦面全体を調査区とした。

2. 遺構及び出土遺物

i) 縄文時代の遺物

縄文時代の遺構を確認することはできなかったが、調査区内から縄文土器を採取した。

縄文土器（第3図、図版第19a）

J1は縄文時代早期の押型文土器である。径3mm～7mm程度の小型楕円が施文されており、黄島系上器に分類される。

J2は風化が著しく詳細は不明であるが、J1同様早期の上器と思われる。

ii) 弥生時代の遺構及び遺物

a. 壁穴住居跡

SI-01（第6図、図版第2a～3c）

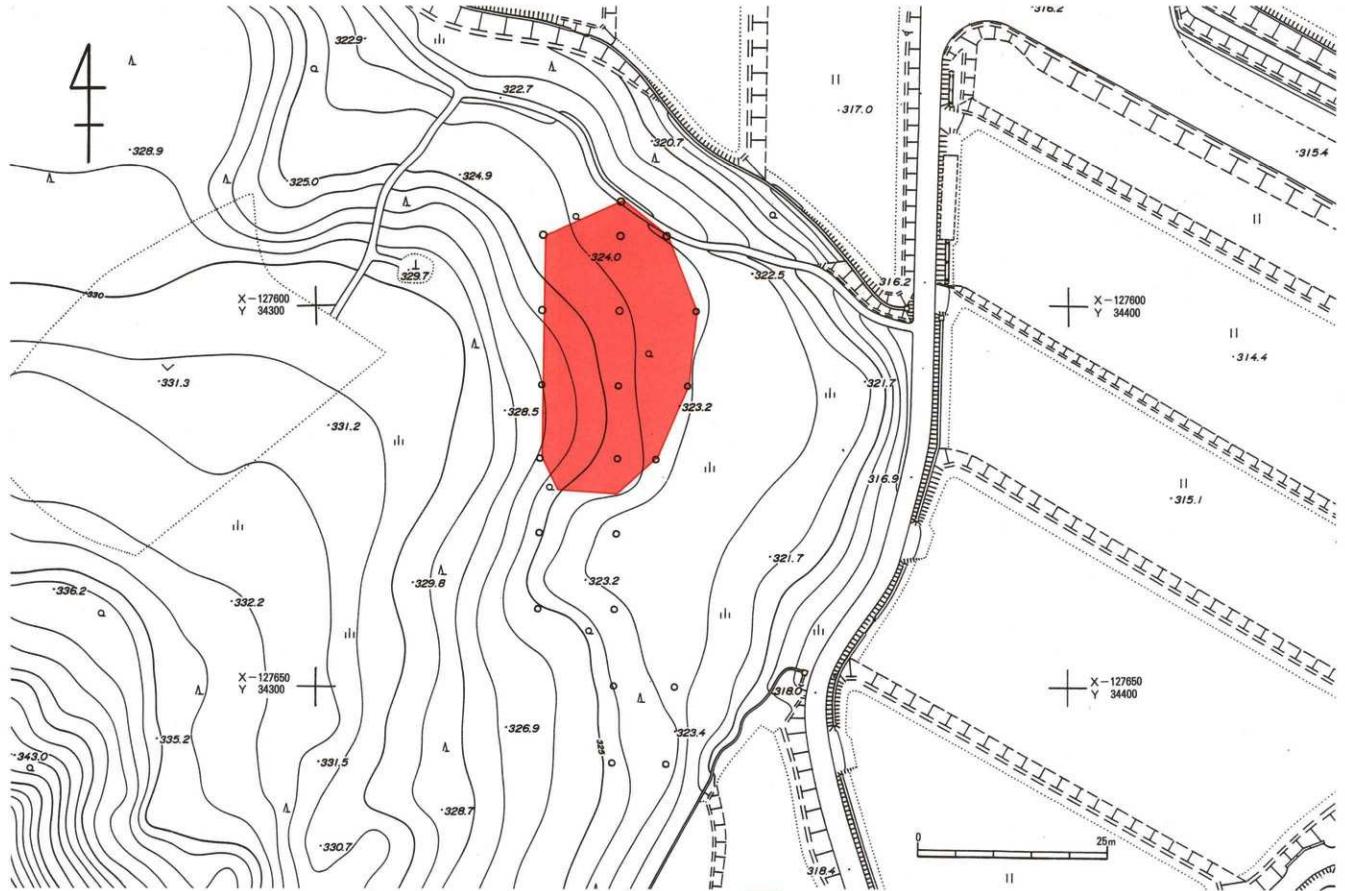
ほぼ円形の住居跡で、直径は約6.4mである。壁高は斜面上方となる西側で38cmあり、斜面下部となる東側は失われている。壁溝は幅30cm～40cm、最も深いところで深さ14cmであった。主柱穴は7本で、間隔は1.68m～2.54mあり、平面形はややいびつな七角形となっている。深さはP1が54cm、P2が62cm、P3が65cm、P4が14cm、P5が47cm、P6が36cm、P7が30cmであった。中央付近に土坑があり、土坑周辺に焼上面を検出した。遺構南西隅付近には主柱穴P7を破壊して土坑SK-01があり、さらに並んで、SK-05が住居跡を破壊して掘られている。遺構内から弥生土器のほか、石器片が出土した。出土遺物から時期は弥生時代中期と思われる。

出土遺物（第7・8図、図版第19b～g）

Y1は高杯である。杯部の口径は21.5cmで、やや傾いている。杯部の口縁端部は外に開き、上部に平坦面をついている。また、口縁端部にヘラ状工具による刻目文が施されている。脚部は「ハ」字状に開いている。調整は、杯部の外面上部と、脚下部がナデ調整、杯体部と脚上部にはヘラ磨きが施されている。焼成は良好、胎土は密、色調は外面がにぶい黄褐色、内面が黒褐色である。Y2は、

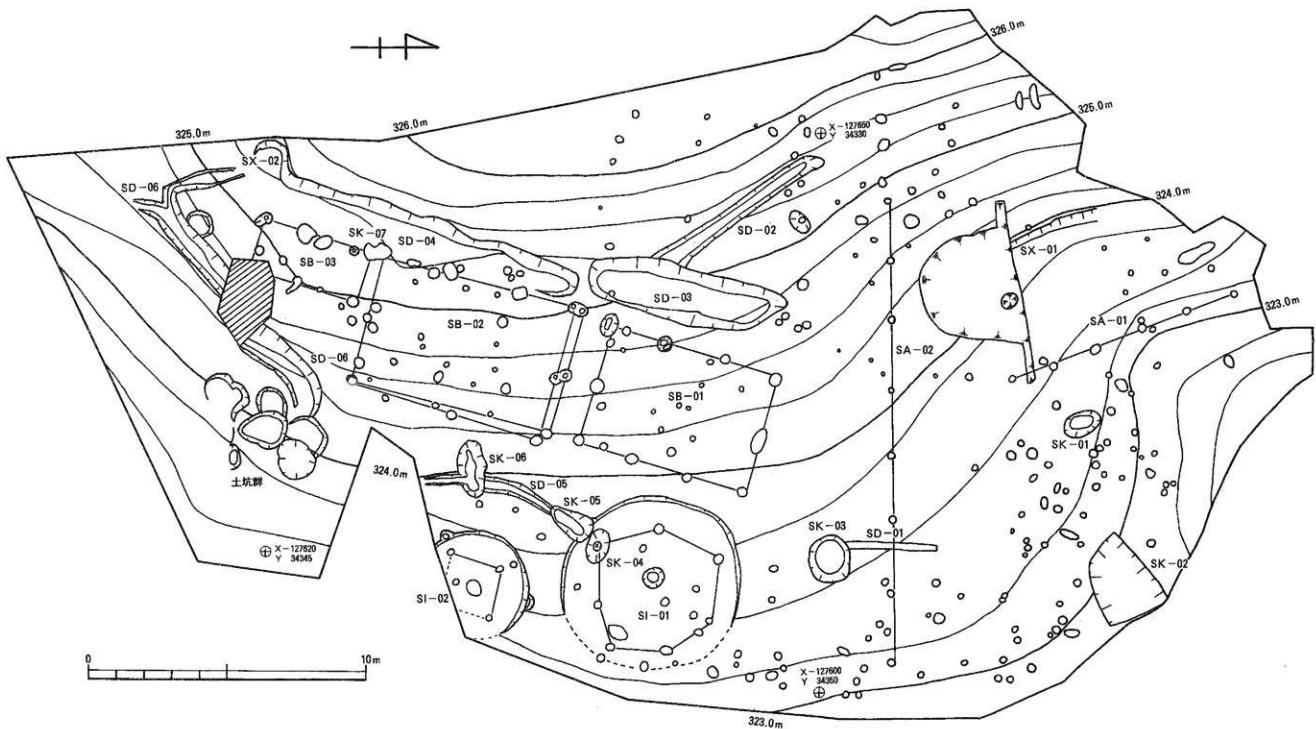


第3図 縄文土器実測図（1:3）

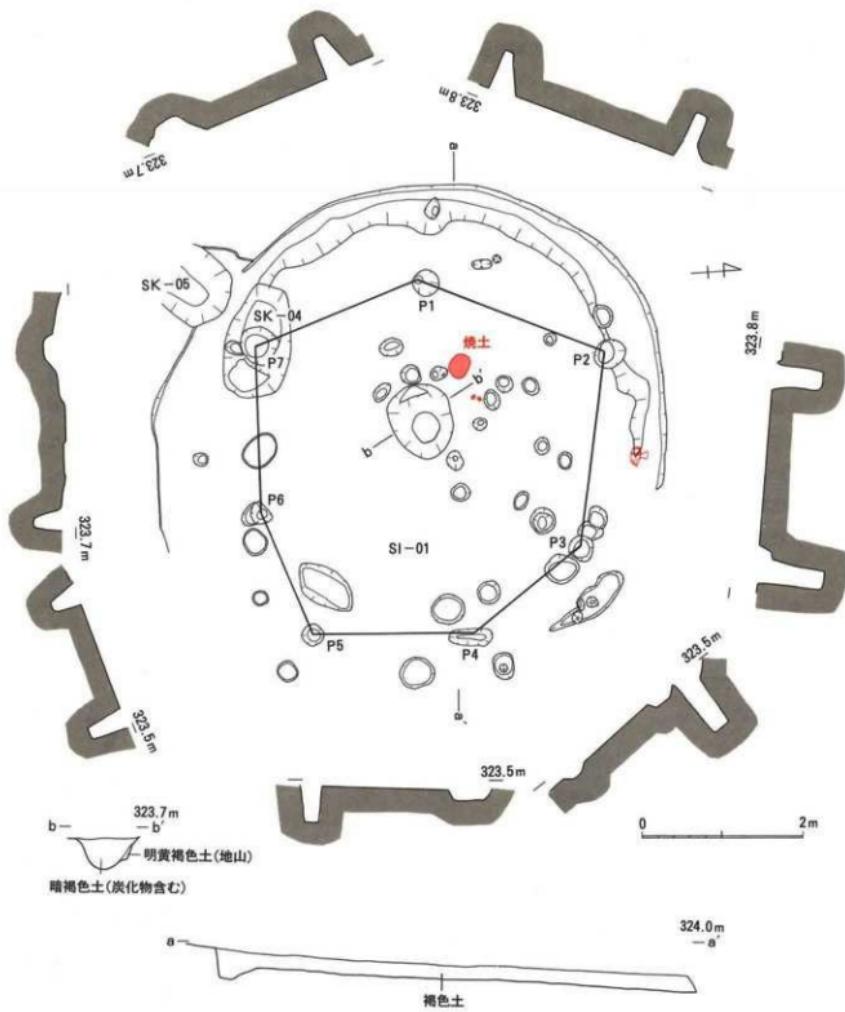


第4図 発掘調査前地形測量図（1:500）

調査区



第5図 発掘調査後地形測量図・遺構配置図



第6図 SI-01 実測図 (1:60)

甕である。口縁部は「く」字型に屈曲し、端部はわずかに丸みをおびている。口径は31cm。内外面とも口縁部はナデ調整が施されている。頸部に刻み目紋が施された突帯がある。胎土は密で砂粒が細かい。色調はにぶい黄褐色を呈する。Y3は甕である。土器の厚さが3mm～4mmと薄く、口縁部は「く」字型に屈曲している。口縁端部は半らに仕上げている。口径は19cm、調整は不明である。焼成はあまく、胎土は密である。色調は灰褐色を呈する。Y4は紡錘車である。径2.8cm～3.0cm、厚さは0.6cmである。焼成はややあまく、胎土には微砂粒を含む。色調は、表面が明褐色、裏面がにぶい褐色を呈する。甕又は甕から転用されたものと思われる。

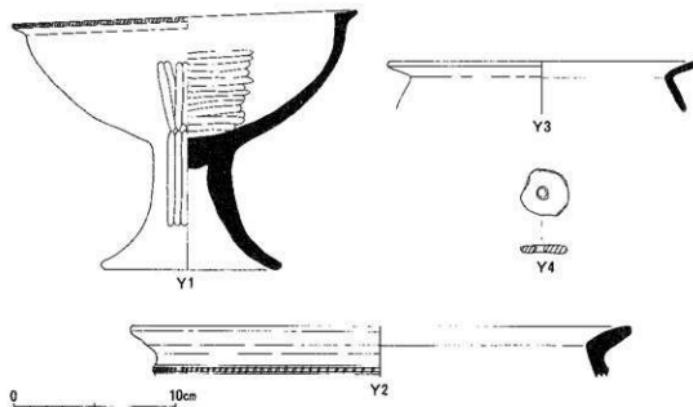
ST1は磨石である。両面に使用痕がみられる。形状は楕円形を呈し、長径は6.7cm、短径は4.7cm、厚さは1.6cmであった。

ST2～ST4は石鐵である。このうちST4は未製品である。いずれも形状は無基底式である。ST2は正三角形状を呈し、三辺とも抉りが深い。ST3は側縁がわずかに外湾し、基部の抉りは浅い。ST4は未製品であるが、基部の抉りが深く、脚端は半らに加工されている。

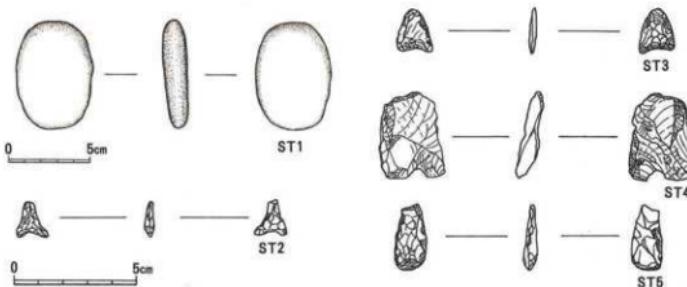
ST5は楔形石器である。先端が欠けている。

SI-02(第9図、図版第4a～5b)

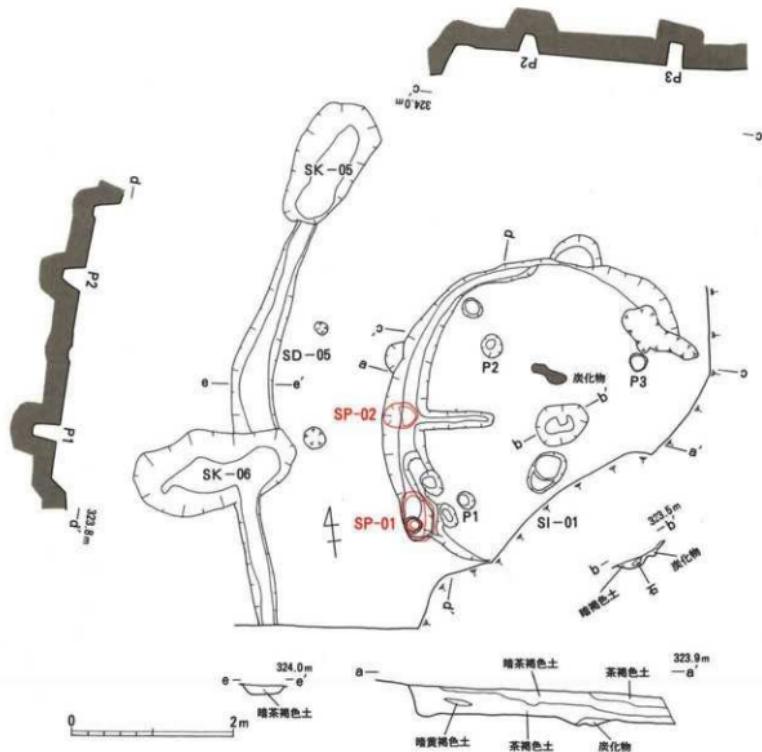
ほぼ円形の住居跡で、直径は約4.4mである。壁高は残りのよい部分で38cmあり、遺構の南半分は破壊されている。壁溝の幅は10cm～34cm、深さは3cm前後であった。一部壁溝が途切れた部分があり、さらに、その場所は壁の上部に掘り込みがあるので、この部分が出入り口であったのかもしれない。主柱穴は3ヵ所確認できた。主柱穴の深さは、P1が32cm、P2が24cm、P3が30cmであった。検出状況から推測すると、破壊された部分にもう1ヵ所柱穴があり、4本柱であったと思われる。主柱穴の間隔は1.86m～2.0mであった。床面中央に浅い土坑があり、炭化物の堆積が観察された。また、床面上でも炭化物が確認された。時期は弥生時代後期と思われる。遺構の斜面上方1.4m～2.0mに、この住居跡を開むようにSD-05があり、住居跡に付随すると思われる。



第7図 SI-01 出土遺物実測図(1)(1:3)



第8図 SI-01 出土遺物実測図(2) (1:2・STIは1:3)



第9図 SI-02・SD-05・SP-01・SP-02 実測図 (1:60)

b. 土坑

SK-01(第10図、図版第5c~6b)

側面、底面とも土が赤褐色に変色しており、熱を受けたものと思われる。一部還元色の部分があり、非常に高温の熱であったらしい。遺構内から弥生時代中期の土器片が出土しており、時期は弥生時代中期と思われる。

SK-03(第10図、図版第6c~7a)

調査区内の中央や北側の平坦面につくられた浅い土坑である。形状は径1.4m~1.8m、深さ10cmで、SD-01を破壊してつくられている。出土遺物から時期は弥生時代中期と思われる。

出土土器(第11図、図版第20b)

Y5は弥生時代中期の甕である。口径は33.6cmあり、色調は明褐色を呈する。胎上は密であるが、焼成はあまり調整は不明である。口縁部は頸部から「く」字状に屈曲し、頸部にわずかながら突起が認められる。

c. 溝状遺構

SD-02(第12図、図版第7b+c)

調査区中央の斜面上部にあり、斜面に対して斜めに掘られている。遺構の南東端はSD-03に破壊されている。南東端から北西端までは長さ6.6mあり、そこで北東方向に約60°曲がり、さらに1.4mのびている。性格は不明であるが、出土遺物から時期は弥生時代中期と思われる。

SD-05(第9図、図版第5a+b)

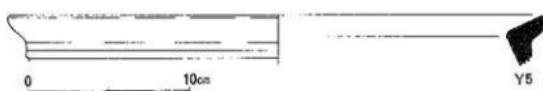
SI-02の斜面上方でSI-02を囲むように掘られた溝状遺構である。長さは約5m、幅はもっとも広い部分で50cm、深さは平均10cmであった。遺構の南側は調査区外に続いており、北側はSK-05と切れ合っている。また、遺構の一部を破壊してSK-06が掘られている。出土遺物は無いが、検出状況からSI-02に付随する遺構と思われる。

d. 遺構に伴わない弥生土器(第13・14図、図版第20a~e)

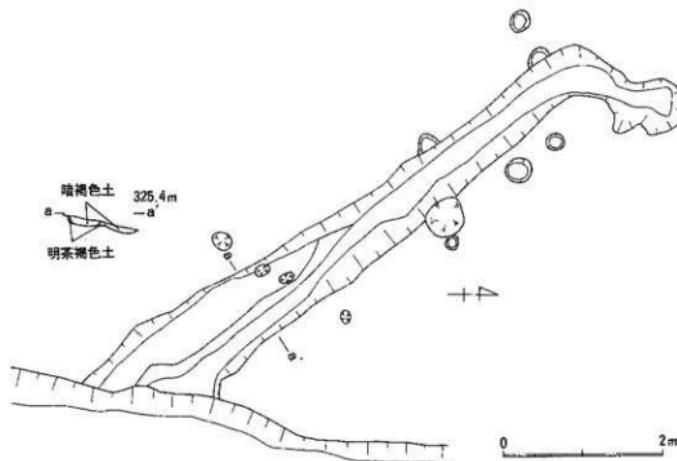
遺構に伴わない弥生土器は、大部分が調査区北半分から出土している。破片が多く尖削し、本書に掲載したのは11点である。器種は高環、甕、壺及び器台である。時期は、器台が弥生時代後期である以外は、すべて弥生時代中期である。



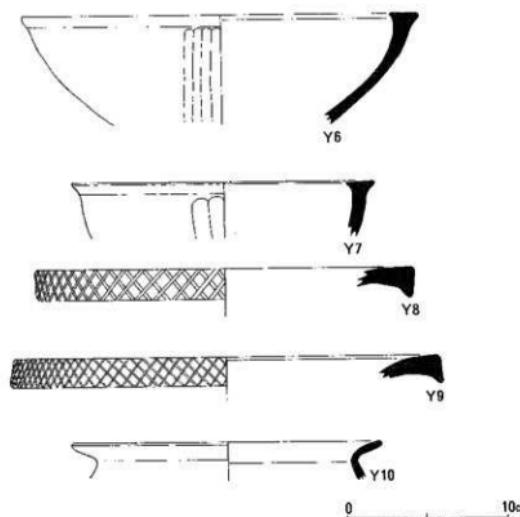
第10図 SK-01・SK-03 実測図(1:60)



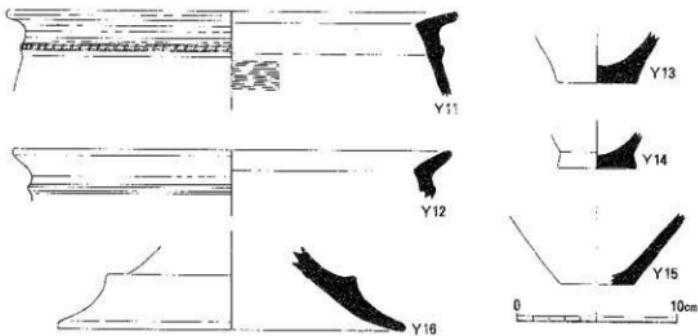
第11図 SK-03 出土遺物実測図(1:3)



第12図 SD-02 実測図 (1:60)



第13図 造構に伴わない弥生土器実測図 (1) (1:3)



第14図 遺構に伴わない弥生土器実測図(2) (1:3)

遺物 番号	標図 番号	図版 番号	器 種			焼成	胎土	色調		調整等	
				口径 (cm)	底径 (cm)			外面 内面	内面		
Y 1	7	19	弥生土器	高環	21.5	9.0	15.7	良好	密	にぶい 黄褐色	頭部にヘラ磨きによる削取 ナデ ヘラ磨き
Y 2	7	19	弥生土器	壺	31.0		残 3.0		密	にぶい 黄褐色	高部に剥離(ヘラ磨きによる施文) ナデ
Y 3	7	19	弥生土器	壺	19.0		残 3.0	やや あまい	密	灰褐色	灰褐色 調整不明
Y 4	7	19	弥生土器	鋤鋸車	(直径 3.0)	(厚さ 0.6)	やや あまい	密	明褐色	にぶい 褐色	調整不明
Y 5	11	20	弥生土器	壺	33.6	残 3.0	やや あまい	密	明褐色	明褐色	頭部に突堤 調整不明
Y 6	13	20	弥生土器	高環	25.0		残 6.8	やや あまい	密	橙褐色	橙褐色 ナデ
Y 7	13	20	弥生土器	高環	19.0		残 3.4	良好	2 mm人の 砂粒含む	橙褐色	ナデ ヘラ磨き
Y 8	13	20	弥生土器	壺	24.0		残 2.0	やや あまい	2 mm人の 砂粒含む	淡黃	口縁端部に ヘラによる施文
Y 9	13	20	弥生土器	壺	26.6		残 1.8	やや あまい	2 mm大の 砂粒含む	淡黃	口縁端部に ヘラによる施文
Y 10	13	20	弥生土器	壺	19.4		残 2.2	やや あまい	密	浅黃	浅黃 ナデ
Y 11	14	20	弥生土器	壺	28.4		残 5.0	やや あまい	密	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色 灰褐色
Y 12	14	20	弥生土器	壺又は 壺	27.6		残 3.0	良好	密	にぶい 黄褐色	にぶい 黄褐色 ナデ
Y 13	14	20	弥生土器	壺又は 壺	5.0	残 3.0	やや あまい	砂粒含む	淡黃 黒褐色	淡黃	調整不明
Y 14	14	20	弥生土器	壺又は 壺		4.8	残 2.0	やや あまい	密	褐色	褐灰色 ナデ
Y 15	14	20	弥生土器	壺又は 壺		4.6	残 4.5	やや あまい	密	灰白	灰 調整不明
Y 16	14	20	弥生土器	器台	21.8	5.2	やや あまい	2 mm大の 砂粒含む	橙褐色	ナデ	

第1表 弥生土器観察表

ii) 歴史時代の遺構及び遺物

a. 挖立柱建物跡

調査区中央から南端にかけて3棟の掘立柱建物跡を検出した。形状は2間×3間の建物が2棟、1間×2間の建物が1棟であった。3棟とも主軸が南南西から北北東を結ぶ線上にあり、特に斜面上側の柱穴はほぼ直線状に並んでいることから、この3棟の建物はほぼ同時代のものであると考えられる。また、建物跡の斜面上部にはほぼ平行して溝状遺構があり、これらの溝状遺構は掘立柱建物に付随するものと思われる。

SB-01(第18図、図版第8 b～9 a)

2間×3間の掘立柱建物である。規模は、梁行約4.2m×桁行約6.2m。柱穴の間隔は、梁行が2.04m～2.18m、桁行が1.96m～2.18mであった。P2、P8及びP10では柱の状態を推測できる資料を得た。P2は柱穴上部の径が約30cm、中央部の径は約40cmあり、最初に径40cm程度の穴を掘り、径30cm程度の柱を建てた後、上を埋めたものと思われる。P8及びP10についても土層断面から同様の方法で柱が建てられたものと思われる。

出土遺物(第15図、図版20f・g)

SU1は坏である。口径は13.2

cm、全面にナデ調整が施され、

焼成は良好で胎上は密である。

色調は灰白色を呈する。SU2は

坏である。口径は約13.6cmで、

口縁端部が微妙に外反する。全

面にナデ調整が施され、焼成は

良好、胎上は密である。色調

は灰色を呈する。SU3は坏であ

る。底径は10.4cm、全面にナデ

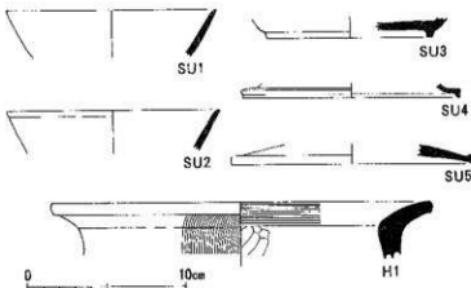
調整が施されている。焼成は良

好で、胎土は密である。色調は

緑灰色を呈する。SU4は蓋であ

る。口径は13.6cm、口縁部付近の厚さは3.0mmである。口縁部は、わずかに水平になった後、端部が下向きに折れ曲がり、外面は中央がややくぼんでいる。全面にナデ調整が施され、焼成は良好で、胎上は密である。色調は灰黄色を呈する。SU5は蓋である。口径は15.1cm、口縁端部は上下に広がり平坦面をつくっている。全面にナデ調整が施され、焼成は良好。胎上は密である。色調は灰白色を呈する。H1は甕である。口径は23.8cm、口縁部は頸部から強く外反し、先端部は丸く収め、下方向にわずかに広がっている。口縁端部はナデ調整が施されているほか、口縁部内側には、横方向の刷毛目、外面頸部から体部にかけては縦方向の刷毛目が施されている。体部内側はヘラ削りである。

焼成はややあまく、胎土には最大で2mm程度の粒砂を含んでいる。色調はにぶい黄褐色を呈する。



第15図 SB-01 出土遺物実測図 (1:3)

SB-02(第19図、図版第9 b)

2間×3間の掘立柱建物である。柱穴の形状から少なくとも1度建て替えられていると思われるので、便宜上SB-02a、SB-02bとする。

SB-02a

規模は、梁行約4.6m～4.7m、桁行約7.2m～7.6mであった。柱穴の間隔は梁行が2.2m～2.42m、桁行が2.4m～4.16mであった。しかし、P6からP8aにかけては柱穴の間隔が不規則であり、柱穴が上砂の流尖により失われた可能性がある。

SB-02b

規模は、梁行約4.7m～5.0m、桁行約6.4m～7.2mであった。柱穴の間隔は梁行が2.28m～2.6m、桁行が2.0m～4.12mであった。SB-02aと同様にP6からP8かけて柱穴の間隔が不規則であり、柱穴が失われている可能性がある。

出土遺物(第16図、図版第20h)

柱穴内から須恵器数点と土師器数点が出土した。このうち実測できた須恵器1点を報告書に掲載する。

SU6は碗又は鉢である。口径は19.6cm、全面にナデ調整が施されている。端部はわずかにふくらみ、平坦面になっている。外面の口縁部はヘラ状のものでわずかに段をつけることにより際だたされている。焼成は良好で、胎土は密、色調は青灰色を呈する。

SB-03(第19図、図版第9 c)

遺構の一部が調査範囲外のためすべての柱穴を検出することはできなかったが、1間×2間の掘立柱建物であると思われる。規模は梁行約1.9m、桁行約3.9mであった。柱穴の間隔は、梁行が1.9m、桁行が1.7m～2.24mであった。

出土遺物

柱穴内から須恵器が数点出土したが、破片のため実測することができなかった。

b. 溝状遺構

SB-01からSB-03の斜面上部に平行してSD-03とSD-04があり、位置関係からこの遺構は掘立柱建物跡に付随するものと思われる。

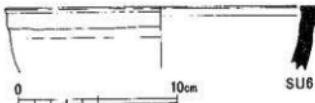
SD-03(第18図、図版第8 a+b)

SB-01の斜面上方に掘られた溝状遺構である。長さは7.1m、幅は最大で1.8mであった。SB-01の桁行方向と同じ方向に掘られており、SB-01に付随する遺構と思われる。

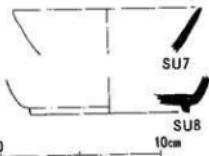
出土遺物(第17図、図版第21a)

SU7は壺である。口径は11.8cm、全面ナデ調整が施され、焼成は良好である。胎土は密、色調は灰オリーブ色を呈する。

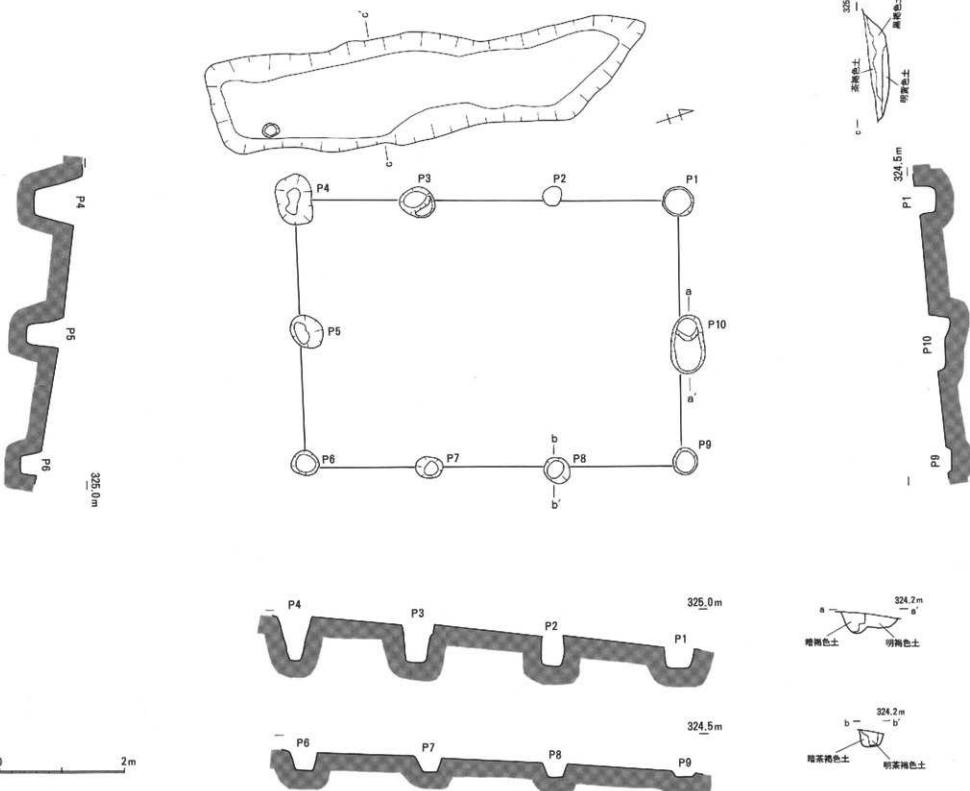
SU8は壺である。底径は10.0cm、全面ナデ調整が施され、焼成は良好である。胎土は密、色調は緑灰色を呈する。



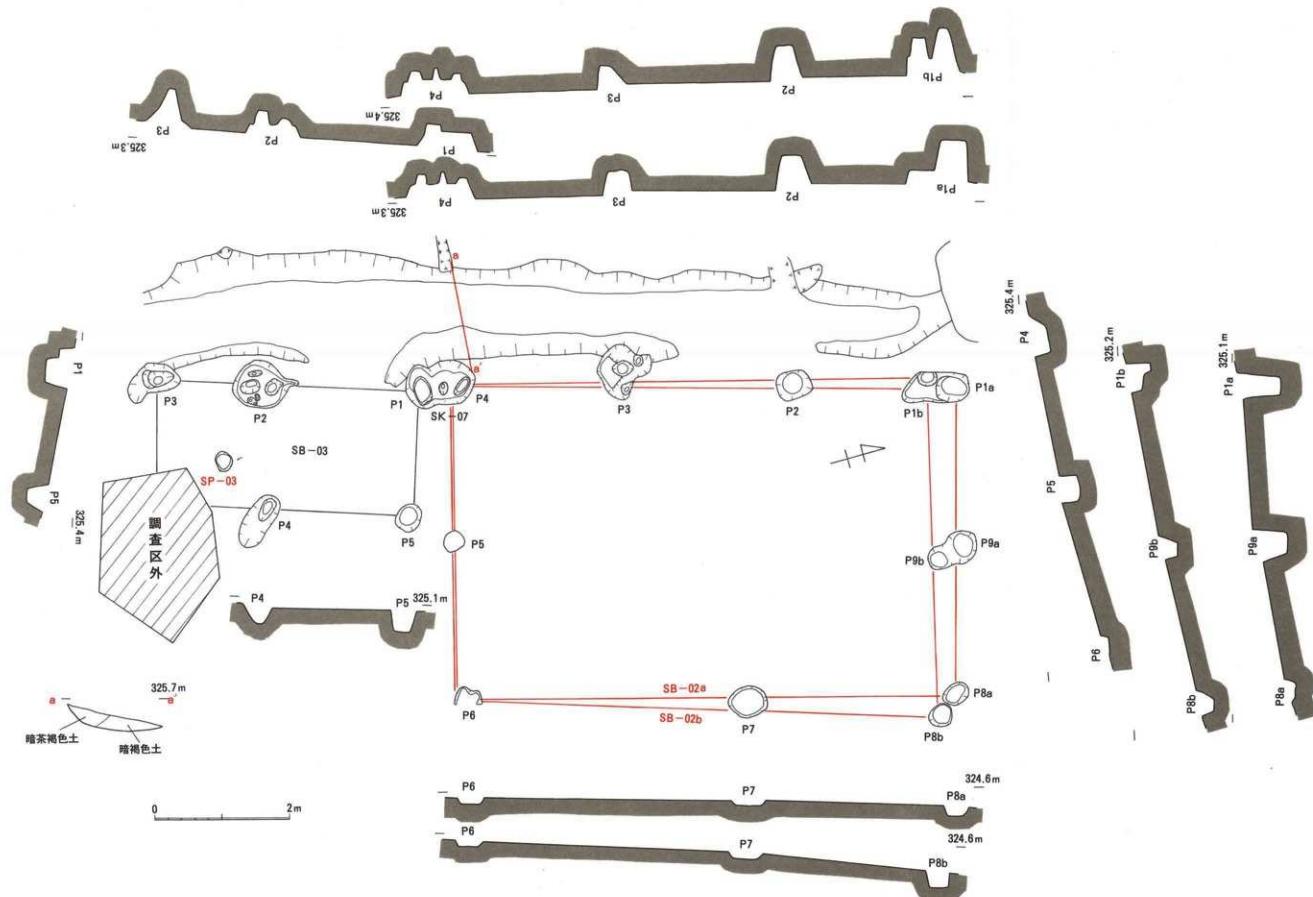
第16図 SB-02 出土遺物実測図 (1:3)



第17図 SD-03 出土遺物実測図 (1:3)



第18図 SB-01・SD-03 対測図 (1:60)



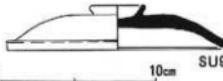
第19図 SB-02・SB-03・SD-04 実測図 (1 : 60)

SD-04(第19図、図版第9b)

SB-02及びSB-03の斜面上方に掘られた溝状遺構である。南側は性格不明の遺構SX-02によって破壊されている。残存部分の長さは12m、幅は最大で1.5mであった。SB-02及びSB-03の桁行方向と同じ向きに掘られており、掘立柱建物に付随すると思われる。

出土遺物(第20図、図版第21b)

SU9は蓋である。口径は13.7cm、全体的にナデ調整が施されているが、一部磨耗のため不明な部分がある。天井部は平坦になつておらず、輪状つまみが貼り付けられている。口縁部はわずかに水平になり、端部は垂直になっている。焼成は良好、胎土は密、色調は外面中央付近が暗灰色、天井部から口縁にかけて浅黄色、内面天井部は灰色、口縁部は暗灰色である。



第20図 SD-04 出土遺物実測図 (1:3)

c. 土坑群(第21図、図版第10a~11c)

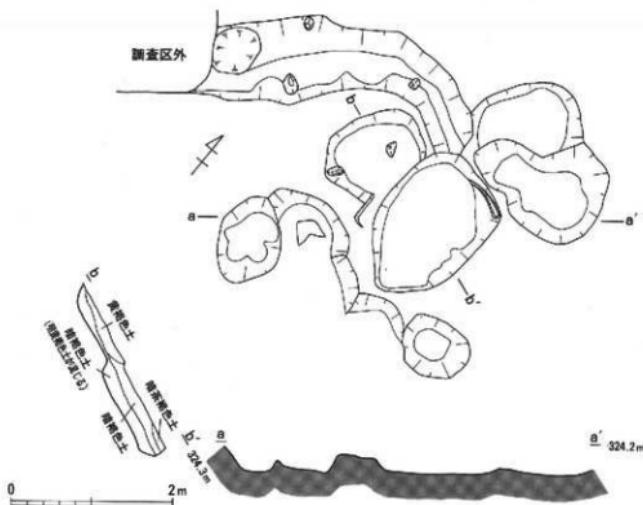
調査区南東隅で土坑を検出した。完掘後の状況から10基程度あったものと思われるが、正確には遺構が重なり合っているため不明である。

出土遺物(第22~24図、図版第21c~23d)

土坑内から須恵器、土師器及び刀子が出土した。

須恵器

土坑群内から出土した須恵器の大部分は环である。そのほか、蓋が3点、甕が1点、長頸甕が1点出土した。



第21図 土坑群実測図 (1:60)

壺は口径が11.6cm～14.6cmあり、高台があるものは12.5cm前後、高台がないものは14cm前後のものが多い。高台の直径は8.8cm～10.4cmあり、9cm前後のものが多い。器高は3.3cm～4.1cmである。いずれもナデ調整が施されている。

壺は4点のうち3点が輪状つまみを有している。残り1点は火井部が欠けているためつまみの形状はわからない。口径がわかるものは3点あり、SU10は15.0cm、SU12は16.1cmであった。SU12の口縁部はわずかに反り、端部は下に折れ曲がっている。SU10は口縁部がやや平坦になり、端部は内側に折れ曲がっている。輪状つまみの直径はSU10が5.2cm、SU11が5.8cm、そしてSU13が5.0cmであった。

甕SU14は口径30.5cm、全面ナデ調整が施されている。口縁端部が上下に広がり、上面に0.9cmの平坦面をつくっている。

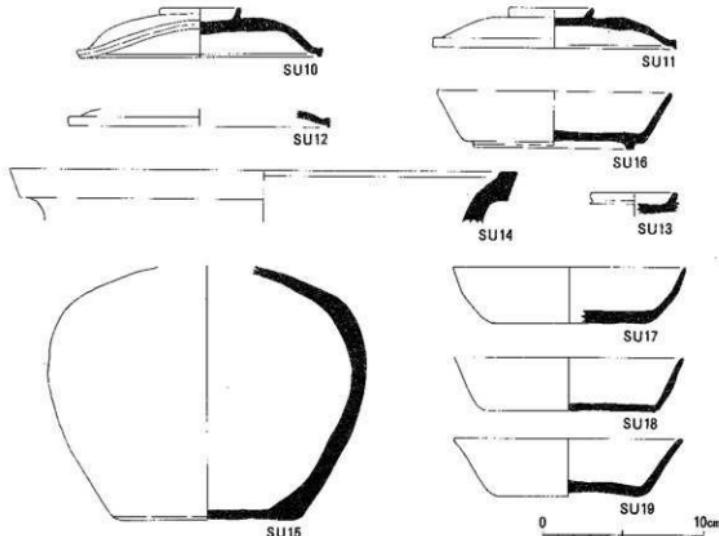
長頸壺SU15は頸接合部から口頸部が欠けている。底部の直径は10.8cm、体部のもっとも広がった部分で直径19.8cmであった。調整は外面にナデ調整が施されている。

土師器

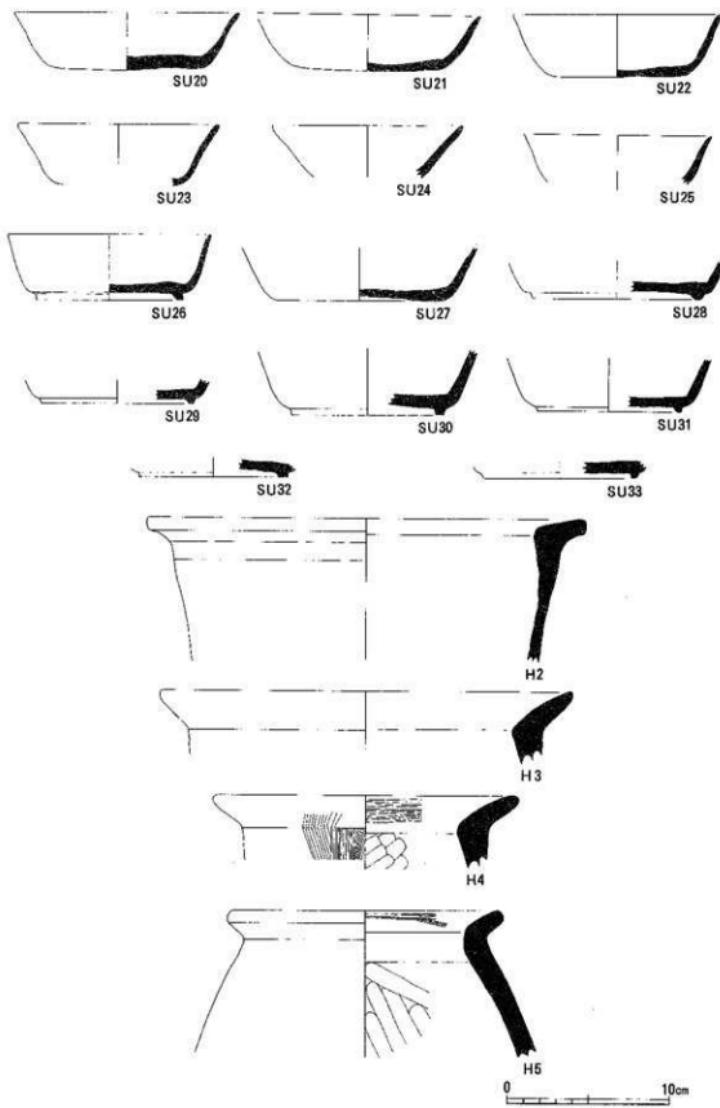
甕が6点出土している。口縁部はいずれも「く」字状に曲がっているが、器壁が厚いもの(H2～H5)と薄いもの(H6、H7)に分けられる。調整は体部外面に刷毛目、内面がヘラ削り調整されている点はほぼ共通しているが、口縁部がナデ調整のみのものと、刷毛目があるものとに分けられる。

刀子

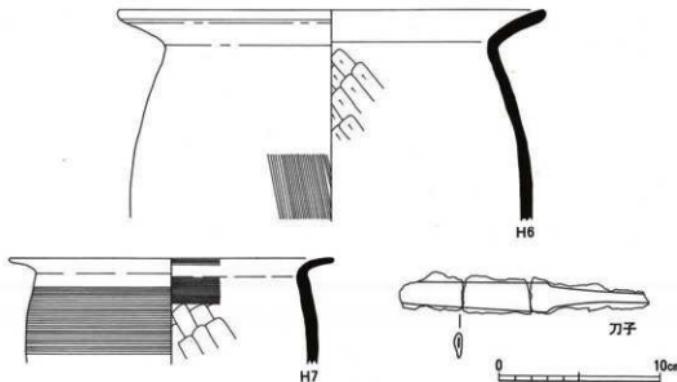
切先を失っている。鋒におおわれていて正確な形状は不明であるが、棟はほぼ直線で刃はやや外反しているように思われる。



第22図 土坑群出土遺物実測図(1)(1:3)



第23図 土坑群出土遺物実測図(2) (1:3)



第24図 土坑群出土遺物実測図(3) (1:3)

d. 土坑

SK-07 (第25図、図版第12a)

SB-02のP4とSB-03のP1の間で検出した土坑である。鉄滓が出士したが、性格は不明である。土坑内から出土した土師器と同一個体の土師器がSD-04の覆土から出土しており、この土坑はこれらの遺構より時期的に新しいと思われる。

出土遺物(第26図、図版第23e・f)

須恵器

SU34は把手である。

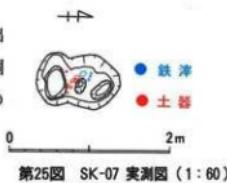
土師器

H8は甕である。口径は29.0cmあり、口縁部付近はナデ調整、体部はタキが施されている。

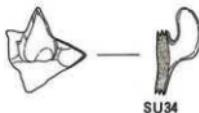
e. ピット(第9・21図、

図版第12b・c)

弥生時代の住居跡SI-02横で二つのピット(SP-01、SP-02)を検出した。また、掘立柱建物SB-03の柱穴付近で、ピット(SP-03)を検出した。性格は不明である。



第25図 SK-07 実測図 (1:60)



第26図 SK-07 出土遺物実測図 (1:3)

出土遺物(第27図、図版第23g-h)

須恵器

SU35はSP-01から出土した壺又は甕の底部である。体部中央から上は失われているが、底部の直径は10.4cm、体部の最も広がった部分で直径19.0cmであった。調整は内外面ともナデ調整が施されている。SU36はSP-03から出土した壺である。口径は11.6cm、高台の直径は7.0cmであった。

f. 造構に伴わない遺物(第28~31図、図版第24a

~25a)

造構に伴わない土器の多くは破片のため実測不能であったが、実測できたものについて掲載する。

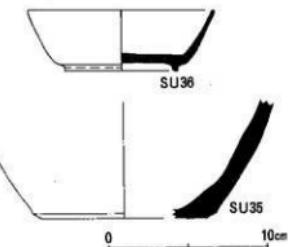
須恵器

実測できた須恵器のほとんどが壺と蓋である。SU47は底部が糸切り技法により切り離された後、ナデ調整が施されている。蓋は口縁端部にかえりは見られず、ほとんどが口縁が屈曲してや和平坦になったあと端部が垂直に降りているが、SU52については、口縁部に平坦面が無く、端部が上下に広がっている。つまみの形状が確認できるものは5点あり、そのうち4点が輪状つまみであり、擬宝珠状つまみは1点のみである。

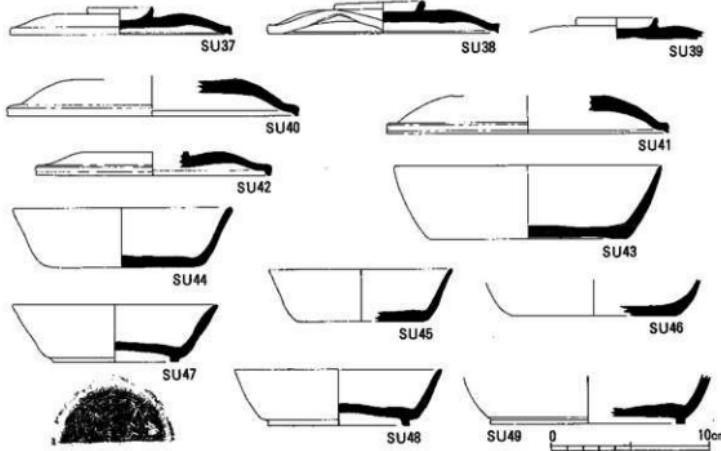
壺及び蓋以外に、高壺の脚部、壺又は甕の底部、碗について実測できた。

土師器

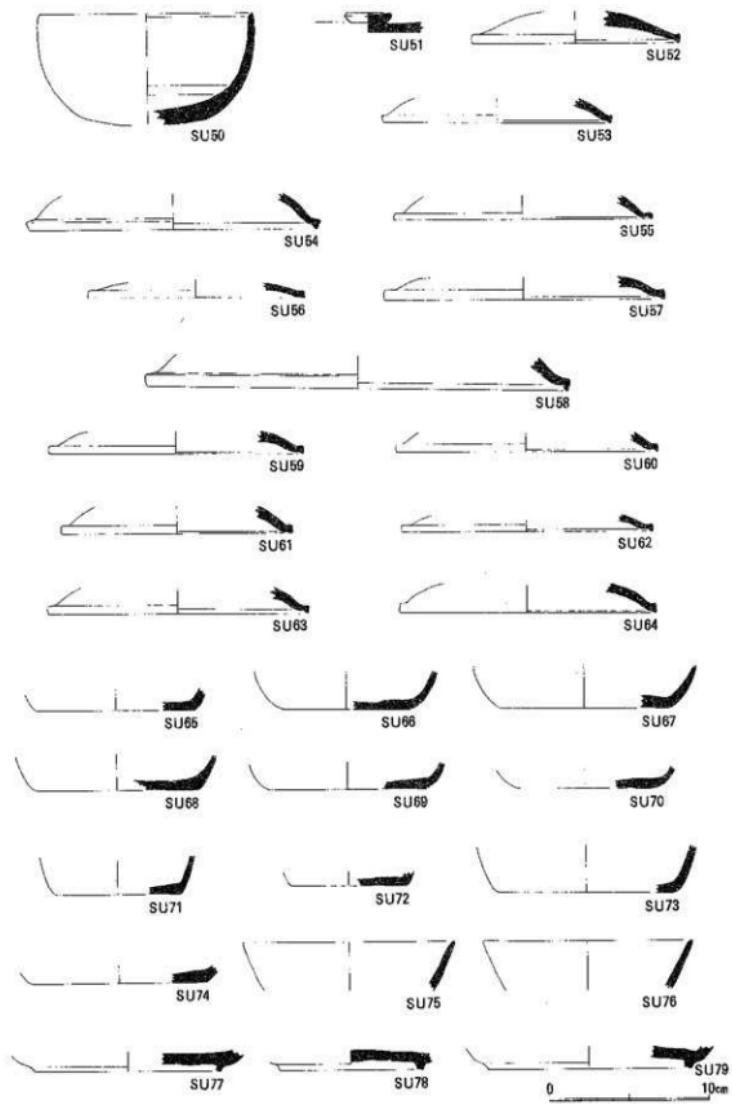
土師器は須恵器に比べて出土数も少なく、実測できたのは6点であった。H9~H13は甕の口縁部、H14は瓶の把手である。



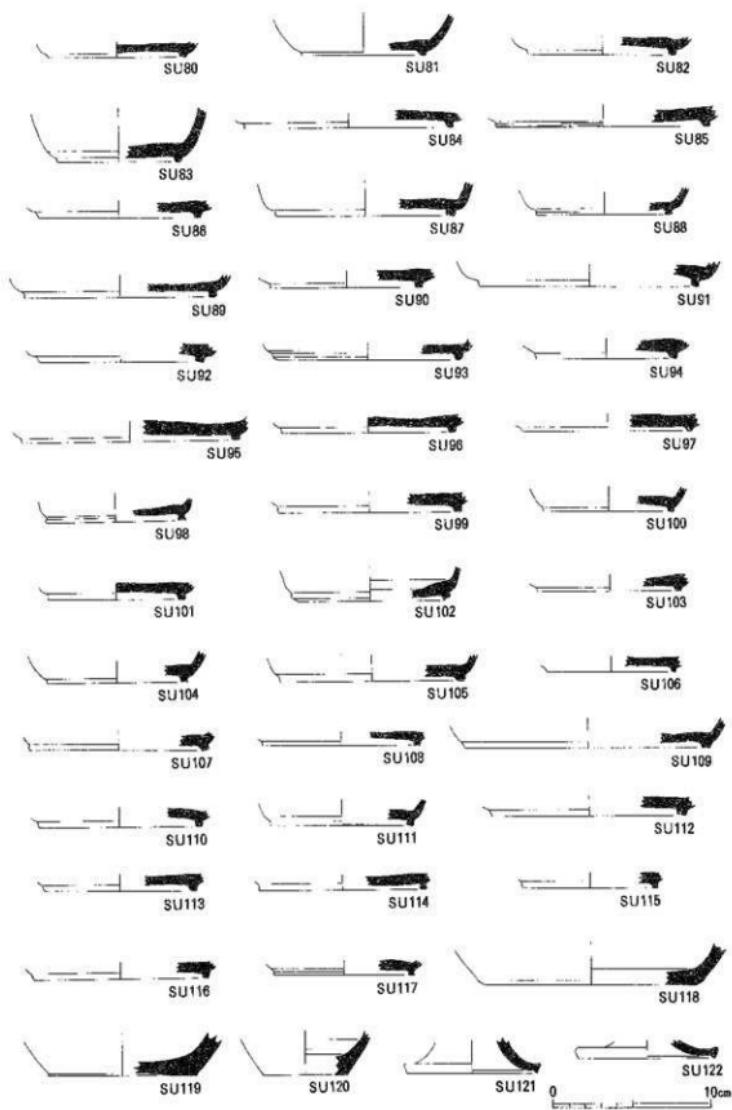
第27図 ピット出土遺物実測図 (1:3)



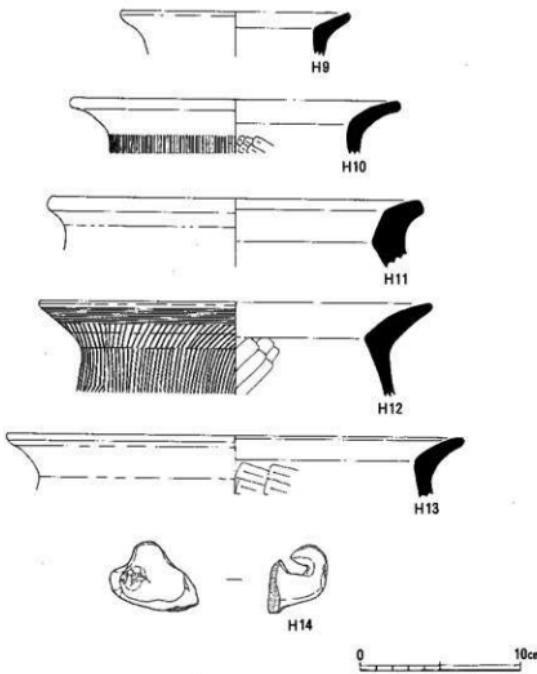
第28図 遺構に伴わない遺物実測図 (1) (1:3)



第29図 遺構に伴わない遺物実測図(2) (1:3)



第30図 遺構に伴わない遺物実測図(3) (1:3)



第31図 遺構に伴わない出土遺物実測図(4) (1:3)

遺物 番号	種類 番号	図版 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	焼成	胎土	色調		調整等
									外 面	内 面	
SU 1	15	20	須恵器	坏	13.2	残 2.9	良好	密	灰白	灰白	ナデ
SU 2	15	20	須恵器	坏	13.6	残 2.6	良好	密	灰	灰	ナデ
SU 3	15	20	須恵器	坏		10.4 残 1.1	良好	密	緑灰	緑灰	ナデ
SU 4	15	20	須恵器	蓋	13.6	残 0.9	良好	密	灰黄	灰黄	ナデ
SU 5	15	20	須恵器	蓋	15.1	残 1.1	良好	密	灰白	灰白	ナデ
SU 6	17	20	須恵器	瓶又は 鉢	19.6	残 4.0	良好	密	青白	青白	ナデ
SU 7	18	21	須恵器	坏	11.8	残 2.8	良好	密	反オーリープ	反オーリープ	ナデ
SU 8	18	21	須恵器	坏		10.0 残 2.1	良好	密	緑灰	緑灰	ナデ
SU 9	19	21	須恵器	蓋	13.7 (つま) 3.5	2.8	良好	密	暗灰 浅黄	灰 暗灰	輪状つまみ
SU 10	22	21	須恵器	蓋	15.0 (つま) 5.3	3.1	良好	1mm大の 砂粒含む	灰白	灰白	ナデ 輪状つまみ
SU 11	22	21	須恵器	蓋	15.2 (つま) 5.8	2.5	良好	密	浅黄	灰白	ナデ 輪状つまみ
SU 12	22	23	須恵器	蓋	16.1	残 1.0	良好	密	灰白	灰	ナデ
SU 13	22	23	須恵器	蓋	(つま) 5.0	残 1.1	やや あまい	密	灰白	灰白	調整不明 輪状つまみ
SU 14	22	23	須恵器	壺	30.5	残 3.0	やや あまい	密	灰	オーリープ	ナデ
SU 15	22	21	須恵器	長頸壺		10.8 残 15.7	良好	密	青灰 浅黄		ナデ 頸部欠損
SU 16	22	21	須恵器	坏	14.6	10.0 3.5	良好	1mm大の 砂粒含む	灰白	灰白	ナデ 高台付
SU 17	22	21	須恵器	坏	14.4	9.2 3.5	あまい	密	灰白	灰白	ナデ
SU 18	22	21	須恵器	坏	14.2	10.6 3.3	良好	1mm大の 砂粒含む	灰	灰	ナデ
SU 19	22	22	須恵器	坏	14.0	8.6 3.6	良好	3mm大の 砂粒含む	灰	灰	ナデ
SU 20	23	22	須恵器	坏	14.0	8.0 3.5	良好	1mm大の 砂粒含む	反オーリープ	反オーリープ	ナデ
SU 21	23	22	須恵器	坏	14.0	8.0 3.5	やや あまい	密	灰白	灰白	ナデ
SU 22	23	22	須恵器	坏	13.0	8.0 3.9	不良	砂粒が 目立つ	暗黄 灰黄	暗黄 灰黄	ナデ 発色不良
SU 23	23	23	須恵器	坏	12.4	残 3.7	良好	砂粒が 目立つ	明オーリープ 灰	明オーリープ 灰	ナデ

第2表 須恵器観察表(1)

遺物番号	種類番号	図版番号	器種		口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	焼成	胎土	色調		調整等
			外	内						面	面	
SU24	23	23	須恵器	坏	11.8		残3.2	あまい	密	灰白	灰白	ナデ
SU25	23	23	須恵器	坏	11.6		残3.0	良好	1mm大の砂粒含む	灰	灰	ナデ
SU26	23	22	須恵器	坏	12.6	9.1	4.1	良好	1mm大の砂粒含む	灰	灰白	ナデ 高台付
SU27	23	22	須恵器	坏		10.4	残3.3	あまい	密	灰白	灰白	調整不明
SU28	23	22	須恵器	坏		10.4	残2.4	あまい	密	灰白	灰白	ナデ 高台付
SU29	23	23	須恵器	坏		9.4	残1.5	良好	密	青灰	青灰	ナデ 高台付
SU30	23	22	須恵器	坏		9.4	残4.0	良好	やや砂粒が多い	灰オーリーブ	灰	ナデ 高台付
SU31	23	23	須恵器	坏		9.0	残3.3	良好	密	緑灰	灰	ナデ 高台付
SU32	23	23	須恵器	坏		9.2	残1.1	良好	密	オリーブ灰	灰	ナデ 高台付
SU33	23	23	須恵器	坏		9.0	残1.1	あまい	密	灰白	灰白	ナデ 高台付
SU34	26	23	須恵器	把手			残5.3	やや あまい	密	灰	灰白	調整不明
SU35	27	23	須恵器	底部		10.4	残7.2	良好	密	灰白	灰白	ナデ
SU36	27	23	須恵器	坏	11.6	7.0	3.8	良好	密	灰 オリーブ灰	灰 オリーブ灰	ナデ
SU37	28	24	須恵器	蓋	14.0	(つまみ) 4.0	1.7	良好	密	灰黄	灰	ナデ 輪状つまみ
SU38	28	24	須恵器	蓋	14.8	(つまみ) 5.0	1.8	良好	微砂粒 含む	青灰	青灰	ナデ 輪状つまみ
SU39	28	24	須恵器	蓋	(つまみ) 5.0	残1.3	良好	2mm大の 砂粒含む	灰黄	緑灰	ナデ	
SU40	28	24	須恵器	蓋	18.3		残2.3	あまい	密	灰黄	灰黄	ナデ
SU41	28	24	須恵器	蓋	17.8		残2.3	良好	密	灰オーリーブ 灰	灰オーリーブ 灰	ナデ
SU42	28	24	須恵器	蓋	14.8		残1.5	良好	密	灰白	灰白	ナデ 輪状つまみ痕
SU43	28	24	須恵器	坏	18.7	12.3	4.6	良好	2mm大の 砂粒含む	灰白	灰白	ナデ
SU44	28	24	須恵器	坏	13.8	8.8	3.7	良好	密	青灰	青灰	ナデ
SU45	28	24	須恵器	坏	11.4	8.0	3.3	良好	密	灰	灰	ナデ
SU46	28	24	須恵器	坏		9.6	残2.2	やや あまい	密	灰白	灰白	調整不明

第3表 須恵器観察表(2)

遺物 番号	辨認 番号	凶版 番号	器種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	焼成	胎土	色調		調整等	
									外面	内面		
SU47	28	24	須恵器	环	13.0	8.0	3.6	良好	2mm大の砂粒含む	暗緑灰	黄灰	ナデ 糸切り
SU48	28	24	須恵器	环	13.0	9.0	3.5	良好	密	オリーブ灰	オリーブ灰	ナデ
SU49	28	24	須恵器	环		12.2	残 3.0	良好	密	灰	灰	ナデ 高台付
SU50	29	24	須恵器	鉢	13.4		6.9	良好	密	灰	灰	ナデ
SU51	29	24	須恵器	蓋		(つまみ) 3.0	残 1.2	良好	密	オリーブ灰	灰黄	擬宝珠つまみ
SU52	29	24	須恵器	蓋	13.0		残 2.0	良好	密	灰白	灰白	ナデ
SU53	29	24	須恵器	蓋	14.4		残 1.5	良好	密	灰白	灰白	ナデ
SU54	29	24	須恵器	蓋	18.0		残 2.2	良好	密	灰白	灰	ナデ
SU55	29	24	須恵器	蓋	16.0		残 1.5	良好	密	灰白	灰白	ナデ
SU56	29	24	須恵器	蓋	13.6		残 0.9	良好	密	灰オリーブ	灰オリーブ	ナデ
SU57	29	24	須恵器	蓋	17.6		残 1.4	良好	密	オリーブ灰	オリーブ灰	ナデ
SU58	29	24	須恵器	蓋	26.5		残 2.0	やや あまい	密	灰白	灰白	ナデ
SU59	29	24	須恵器	蓋	16.0		残 1.4	良好	密	灰白	青灰	ナデ
SU60	29	24	須恵器	蓋	16.5		残 1.2	良好	密	浅黄	灰	ナデ
SU61	29	24	須恵器	蓋	14.6		残 1.7	良好	密	灰白	灰	ナデ
SU62	29	24	須恵器	蓋	15.8		残 1.0	良好	密	灰	灰	ナデ
SU63	29	24	須恵器	蓋	16.6		残 1.6	良好	密	淡黄	淡黄	ナデ
SU64	29	24	須恵器	蓋	16.1		残 1.8	良好	密	灰白	灰白	ナデ
SU65	29	24	須恵器	环		10.0	残 1.4	良好	密	灰	灰	ナデ
SU66	29	24	須恵器	环		8.0	残 2.4	良好	密	灰黄	灰黄	ナデ
SU67	29	24	須恵器	环		10.6	残 2.7	やや あまい	密	灰白	灰白	ナデ
SU68	29	24	須恵器	环		10.0	残 2.2	あまい	密	灰白	灰白	ナデ
SU69	29	24	須恵器	环		9.8	残 1.7	あまい	密	灰白	灰白	ナデ

第4表 須恵器観察表(3)

遺物 番号	種類 番号	図版 番号	器 種		口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	焼成	胎 土	色 調		調整等
			外 面	内 面						外 面	内 面	
SU70	29	24	須恵器	坏		8.0	残 1.4	やや あまい	密	灰白	灰白	ナデ
SU71	29	24	須恵器	坏		8.0	残 2.4	良好	密	灰	灰	ナデ
SU72	29	24	須恵器	坏		7.0	残 0.8	良好	密	灰黄	灰黄	調整不明
SU73	29	24	須恵器	坏		10.7	残 3.0	やや あまい	密	灰 灰白	灰白	ナデ
SU74	29	24	須恵器	坏		11.0	残 1.0	やや あまい	密	灰白	灰白	ナデ
SU75	29	24	須恵器	坏	13.2		残 3.0	良好	密	綠灰	綠灰	ナデ
SU76	29	24	須恵器	坏	13.2		残 3.0	やや あまい	密	灰白	灰白	ナデ
SU77	29	24	須恵器	坏		11.8	残 1.3	良好	2 mm大の 砂粒含む	灰	灰白	ナデ 高台付
SU78	29	24	須恵器	坏		9.0	残 1.2	良好	密	灰	灰	ナデ 高台付
SU79	29	24	須恵器	坏		12.8	残 1.4	良好	密	灰	灰	ナデ 高台付
SU80	30	24	須恵器	坏		8.6	残 1.0	良好	密	灰白	灰白	ナデ 高台付
SU81	30	24	須恵器	坏		7.8	残 2.5	良好	密	灰	灰白	ナデ 高台付
SU82	30	24	須恵器	坏		9.4	残 1.1	良好	密	オリーブ灰	オリーブ灰	ナデ 高台付
SU83	30	24	須恵器	坏		7.8	残 3.4	良好	密	暗灰	灰	ナデ 高台付
SU84	30	24	須恵器	坏		13.2	残 1.0	良好	密	灰白	灰白	ナデ 高台付
SU85	30	24	須恵器	坏		13.5	残 1.2	良好	密	灰	灰	ナデ 高台付
SU86	30	24	須恵器	坏		10.2	残 1.0	やや あまい	密	灰白	淡黄	ナデ 高台付
SU87	30	24	須恵器	坏		11.2	残 2.1	良好	密	灰	灰	ナデ 高台付
SU88	30	24	須恵器	坏		8.6	残 1.6	良好	密	灰	灰	調整不明
SU89	30	24	須恵器	坏		12.0	残 1.3	やや あまい	密	灰白	灰白	調整不明
SU90	30	24	須恵器	坏		9.6	残 1.1	やや あまい	密	灰	灰	調整不明
SU91	30	24	須恵器	坏		14.0	残 1.6	良好	密	灰	灰	ナデ 高台付
SU92	30	24	須恵器	坏		10.4	残 1.1	やや あまい	密	灰白	灰白	ナデ 高台付

第5表 須恵器観察表(4)

遺物 番号	括弧 番号	岡版 番号	器種		口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	焼成	胎土	色調		調整等
			須恵器	坏						外面	内面	
SU93	30	24	須恵器	坏		12.0	残 1.3	良好	2mm大の 砂粒含む	灰	灰	ナデ 高台付
SU94	30	24	須恵器	坏		9.0	残 1.1	良好	密	青灰	青灰	ナデ 高台付
SU95	30	24	須恵器	坏		13.7	残 1.4	良好	密	灰白	灰白	ナデ 高台付
SU96	30	24	須恵器	坏		11.0	残 1.1	良好	2mm大の 砂粒含む	灰	灰	ナデ 高台付
SU97	30	24	須恵器	坏		10.7	残 1.0	良好	密	灰	灰	ナデ 高台付
SU98	30	24	須恵器	坏		8.8	残 1.4	良好	密	灰	灰	ナデ 高台付
SU99	30	24	須恵器	坏		11.6	残 1.2	良好	密	灰白	灰白	ナデ 高台付
SU100	30	24	須恵器	坏		8.2	残 1.5	良好	密	灰白 暗灰	灰黄	ナデ 高台付
SU101	30	24	須恵器	坏		8.6	残 1.1	良好	2mm大の 砂粒含む	灰	灰	ナデ 高台付
SU102	30	24	須恵器	坏		9.2	残 2.1	良好	密	灰白	灰白	ナデ 高台付
SU103	30	24	須恵器	坏		9.1	残 1.0	やや あまい	密	灰	灰	ナデ 高台付
SU104	30	24	須恵器	坏		9.0	残 1.9	良好	密	オリーブ灰	オリーブ灰	ナデ 高台付
SU105	30	24	須恵器	坏		11.7	残 1.6	良好	密	緑灰	緑灰	ナデ 高台付
SU106	30	24	須恵器	坏		8.0	残 0.9	良好	密	青灰	青灰	ナデ 高台付
SU107	30	24	須恵器	坏		11.3	残 1.2	良好	密	オリーブ灰	オリーブ灰	ナデ 高台付
SU108	30	24	須恵器	坏		10.0	残 0.9	良好	密	灰	明灰 オリーブ	ナデ 高台付
SU109	30	24	須恵器	坏		15.5	残 1.9	良好	密	明灰 オリーブ	明灰 オリーブ	ナデ 高台付
SU110	30	24	須恵器	坏		10.3	残 1.1	良好	密	灰	灰	ナデ 高台付
SU111	30	24	須恵器	坏		9.0	残 1.6	良好	密	灰	灰	ナデ 高台付
SU112	30	24	須恵器	坏		12.2	残 1.1	良好	密	灰	灰	ナデ 高台付
SU113	30	24	須恵器	坏		9.6	残 1.0	やや あまい	密	灰白 灰黄	灰白 灰黄	ナデ 高台付
SU114	30	24	須恵器	坏		10.6	残 0.9	やや あまい	密	灰白	灰白	調整不明 高台付
SU115	30	24	須恵器	坏		10.6	残 0.9	良好	密	灰	灰黄	ナデ 高台付

第6表 須恵器観察表(5)

遺物 番号	種図 番号	図版 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	焼成	胎土	色調		調整等	
									外面	内面		
SU116	30	24	須恵器	坏		11.0	残 1.0	良好	密	灰	灰	ナデ 高台付
SU117	30	24	須恵器	坏		8.8	残 0.9	良好	密	灰	灰黄	ナデ 高台付
SU118	30	24	須恵器	底部		13.0	残 2.6	良好	密	灰	灰	ナデ
SU119	30	24	須恵器	底部		9.4	残 2.7	良好	密	灰	灰	ナデ
SU120	30	24	須恵器	低部		5.4	残 2.7	良好	密	灰	オリーブ灰	調整不明
SU121	30	24	須恵器	高环 脚部		8.1	残 2.0	良好	密	灰白	灰白	ナデ
SU122	30	24	須恵器	高环 脚部		8.3	残 1.1	良好	密	灰黄	灰黄	ナデ

第7表 須恵器観察表 (6)

遺物 番号	種図 番号	図版 番号	器 種	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	焼成	胎土	色調		調整等
									外面	内面	
H1	15	20	土師器	壺	23.8	残 3.3	やや あまい	2 mm大の 砂粒含む 黄橙	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	ナデ刷毛目 ヘラ削り
II2	23	23	土師器	壺	27.3	残 8.9	良野	1 mm大の 砂粒含む 黄橙	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	ナデ 外面に煤付着
II3	23	23	土師器	壺	25.4	残 4.0	あまい	2 mm大の 砂粒含む 黄橙	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	調整不明
II4	23	23	土師器	壺	18.6	残 4.0	やや あまい	3 mm大の 砂粒含む 黄橙	橙	橙	刷毛目 ヘラ削り
H5	23	23	土師器	壺	16.8	残 9.2	良好	3 mm大の 砂粒含む 黄橙	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	刷毛目 ヘラ削り
H6	24	23	土師器	壺	26.6	残 13.0	良好	1 mm大の 砂粒含む 黄橙	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	ナデ刷毛目 ヘラ削り
H7	24	23	土師器	壺	20.2	残 6.5	良好	2 mm大の 砂粒含む 黄橙	橙	橙	ナデ刷毛目 ヘラ削り
II8	26	23	土師器	壺	29.0	残 15.6	良好	密	淡黄橙	淡黄橙	ナデ タキ
H9	31	25	土師器	壺	14.2	残 2.6	やや あまい	密	淡橙	淡橙	調整不明
H10	31	25	土師器	壺	20.8	残 3.3	良好	3 mm大の 砂粒含む 黄橙	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	ナデ刷毛目 ヘラ削り
H11	31	25	土師器	壺	23.6	残 4.1	良好	2 mm大の 砂粒含む 黄橙	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	ナデ
H12	31	25	土師器	壺	24.6	残 5.7	良好	密	淡黄橙	淡黄橙	ナデ刷毛目 ヘラ削り
H13	31	25	土師器	壺	28.8	残 3.6	やや あまい	1~2 mmの 砂粒多い 黄橙	橙	橙	ナデ ヘラ削り
H14	31	25	土師器	把手		残 4.4	良好	密	にぶい 黄橙	にぶい 黄橙	調整不明

第8表 土師器観察表

iv) 時期不明の遺構及び遺物

a. 棚列状遺構

SA-01(第33図、図版第13a)

斜面の傾斜に直行して並んでおり、柱穴の間隔は1.58m～1.8m、延長は8.48mであった。斜面上方約4mのところにSX-01がほぼ平行にあり、両遺構に何らかの関係がある可能性もある。

SA-02(第34図、図版第13b)

調査区を横断するように並んでおり、柱穴の間隔は2.14m～2.66m、延長は16.88mであった。

b. 土坑

SK-02(第35図、図版第13c～14b)

調査区北東隅で検出し、調査区内から調査区外に向けてのびていた。年代は不明であるが、堆積している土の中からは須恵器片が出土しているので、奈良時代以降に掘られたものと思われる。水が流れた形跡がある。

SK-04(第35図、図版第14c・15a・c)

SI-01の中から検出された。住居の主柱穴と切れ合っており、遺構の検出状況からこの上坑は住居跡より後世のものと思われる。長径1.43m、短径0.74m深さは20cmであった。

SK-05(第35図、図版第14c・15b・c)

SI-02の周囲をめぐるSD-05に掘られた土坑である。長径1.66m、短径0.84m深さは28cmであった。土坑底部は熱を受け赤茶色に変色していたほか、1cm～2cm程度の厚さに炭化物が堆積していた。時期はSI-01の一部を破壊しているため弥生時代中期以降と考えられるが、SD-05との時代関係が不明であるので詳しい時代は不明である。

SK-06(第35図、図版第5a・b・16a)

SD-05を横断して掘られた長径2.04m、短径1.0m深さ31cmの土坑である。SD-05を破壊して掘られているため弥生時代後期以降に掘られたものと考えられるが、年代を特定することはできなかった。

c. 溝状遺構

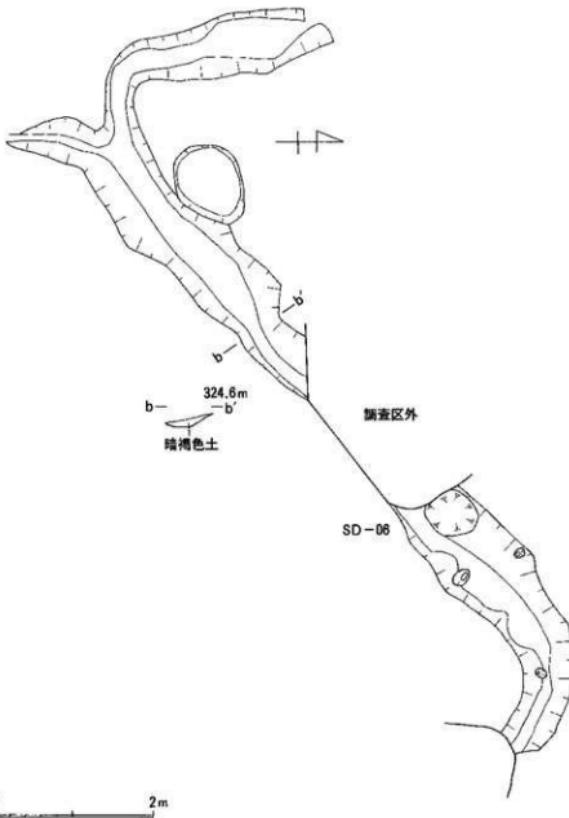
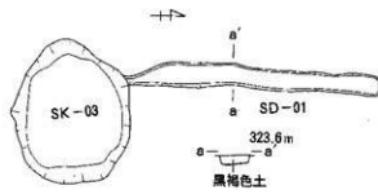
SD-01(第32図、図版第6c・7a)

規模は長さ3.24m、幅0.24m深さ10cmで、南側の一部はSK-03によって破壊されている。弥生時代中期のSK-03以前のものと思われるが、詳しい時代や性格は不明である。

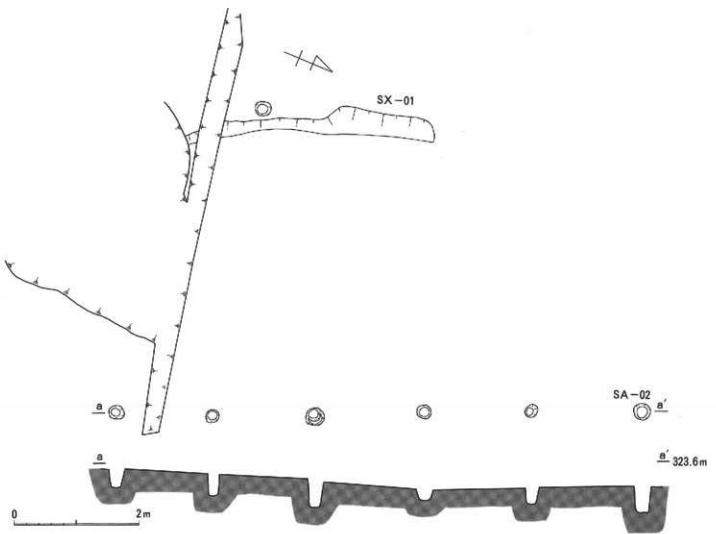
SD-06(第32図、図版第16b・c)

調査区南端斜面の傾斜がゆくなり、やや平坦になった部分で検出した。遺構の西側は分岐し、横方向と斜面上方にのびている。また、東側は土坑群によって破壊されている。長さは分岐点まで約9.6m、そこからさらに斜面上方に3.4mまた、横方向に1.2mである。幅はもっとも広いところで約0.8mである。

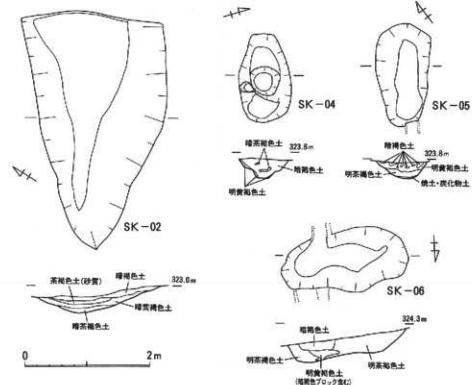
遺構の位置から推測すると、かつて道として使用されていた可能性もある。



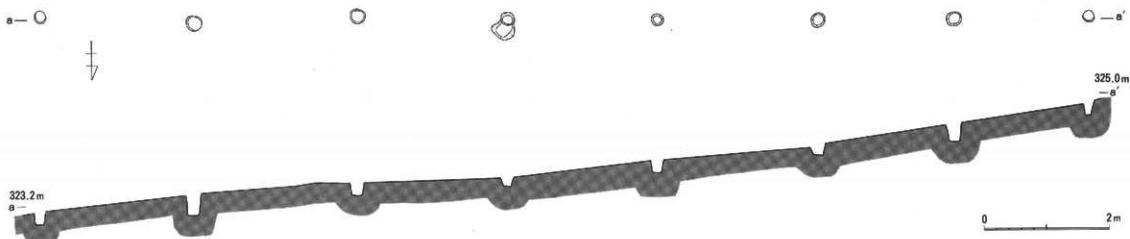
第32図 SD-01・SD-06 矢測図(1:60)



第33図 SA-01・SX-01 実測図 (1:60)



第35図 土坑実測図 (1:60)



第34図 SA-02 実測図 (1:60)

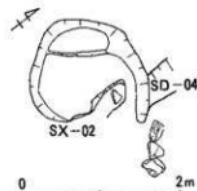
d. 性格不明遺構

SX-01(第33図、図版第17a)

調査区北側の斜面で長さ約3.8mにわたって段状になった遺構を検出した。検出面での段差は9cm~33cmであった。柵列状遺構SA-01とほぼ平行に掘られており、何らかの関係があった可能性もある。

SX-02(第36図、図版第17b)

SD-04の南端から山側に奥行き約1.3m、幅約1.4m掘り込まれていた。検出状況から推測すると、遺構はさらに斜面下方向に続いていると思われる。熱を受けた形跡がある石が数個あった。

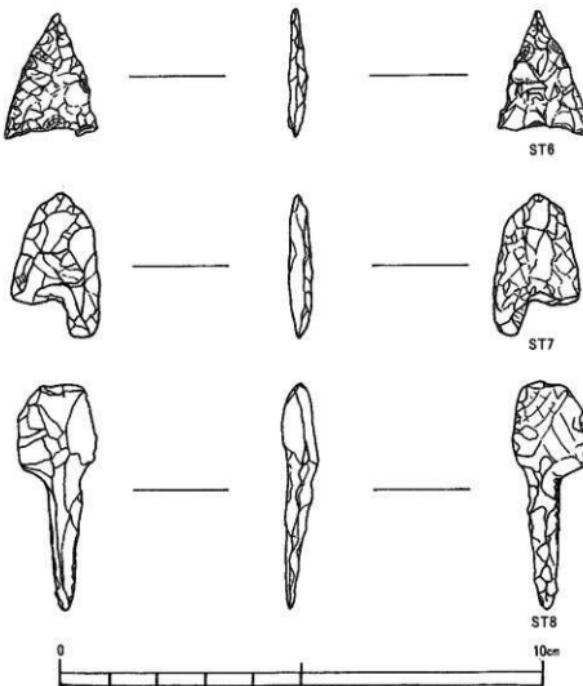


第36図 SX-02 実測図(1:60)

e. 包含層出土石器(第37図、図版第25b)

ST6~TS8は包含層から出土した石器である。共伴する遺物がないため、時代を特定することができなかった。

ST6及びST7は石鏃である。いずれも無茎凹基式である。ST6は二等辺三角形状を呈し、基部の抉りは浅い。ST7は基部の抉りが深い。ST8は錐である。3点とも石材は安山岩である。



第37図 包含層出土石器実測図(1:1)

IV. まとめ

今回の調査面積はわずかであるが、住居跡2棟のほか掘立柱建物跡3棟など、かつてこの地域に暮らしていた人々の生活の跡を確認できた。

1. 縄文時代

出土した2点の縄文土器のうち1点は縄文時代早期の押型文土器で、黄島系土器に分類される。本町のほぼ中央を流れる出羽川流域に広がる出羽盆地では、その河岸段丘上に上流の牛塚原遺跡から下流の横道遺跡まで、本遺跡以外に出羽川に沿って5カ所の遺跡で縄文時代早期の土器が出土している。本遺跡の調査により黄島期の土器が出土しているのは、木造跡、川ノ免遺跡及び横道遺跡の3遺跡となった。これら3遺跡以外で確認されているのは黄島期よりも新しい高山寺期以降の土器である。

2. 弥生時代

弥生時代中期及び後期の住居跡が検出されたほか、SD-02及びSK-03からも中期の上器が出土した。さらに、調査区北西隅からも遺構には伴わないものの中期の土器が出土している。これらの上器は中期中頃から後半にかけてのものであり、本遺跡周辺には弥生時代中期中頃から弥生時代後期にかけて集落があったものと思われる。

竪穴住居跡について

本遺跡以外に本町内で確認された弥生時代中期の住居跡は4例あり、本遺跡から西に約1km離れた長尾原遺跡で検出された2例及び南西に約2km離れた順庵原遺跡で検出された1例が弥生時代中期後半のものとされている。形状はいずれも円形で、長尾原遺跡の2例が直径約6m^⑨、順庵原の1例が直径約6.2m^⑩あり、今回の調査で検出した住居跡とほぼ同じ規模であった。もう1例は本遺跡から南西に約3.2km離れた大金谷遺跡で検出され、時期は弥生時代中期前半とされている。形状は不定形な円形で、直径は2.9m^⑪であった。

今回検出したした中期の住居跡は、出土遺物から中期中頃のものと思われる。規模形状とも、長尾原遺跡や順庵原遺跡の住居跡と共通点が多い。

この時期の住居跡についての調査事例は少なく、近隣では、邑智郡内では本町の5例以外に検出例がなく、隣接する山県郡東部の大朝町で3例^⑫、藤平町で1例^⑬確認されているにすぎない。今後の調査例の増加が望まれる。

3. 歴史時代

掘立柱建物について

検出した3棟の掘立柱建物跡は、柱穴の並びが溝状造構に平行してほぼ直線になることや建物間の距離が離れてないことから判断して、ほぼ同時期に使用されていた倉庫的な用途の建物であった可能性が高いと思われる。また、造構の配置から考えると、掘立柱建物の北側で調査区を横断している柵列状遺構SA-02はこの遺構に伴う可能性もある。

土坑群について

検出当初は住居跡と考え、調査を進めたが、結果として少なくとも10基の複雑に切れ合った土坑であった。刀子が出土していることから1基は土坑墓であった可能性が高いが、出土する土器を見ると、すべてが土坑墓とは考えられず、この土坑群がどのような性格のものかは不明である。

時期について

堀立柱建物跡及び溝状遺構については、出土遺物が少ないため具体的な時期及び遺構間の時期差について詳細な検討を行うことはできなかった。おおよその時期を考えると、溝状遺構SD-04から出土した蓋の形状が、石見空港予定地内発掘調査報告書編年⁽¹⁾のⅢ期及び日脚遺跡発掘調査報告書編年⁽²⁾のⅦ期よりもやや古く8世紀中頃から後半のものと思われる。

土坑群について比較的良好な状態で出土した長頸壺SU15から年代を推定すると、石見空港予定地内発掘調査報告書編年⁽³⁾のⅢ期に相当し、8世紀後半から9世紀始めのものと思われる。

鉄滓が出土したSK-07については、土坑内から出土した土師器外面の調整から時期は奈良時代のものと思われる。

ビットについては、内部から出土した須恵器の形状が土坑群から出土したSU15底部の形状に類似していることから、8世紀後半から9世紀始めのものである可能性が高い。

最後に遺構に伴わない須恵器の時期について考察する。蓋については、輪状つまみを持つ蓋に類似した遺物が本町に隣接する旭町の重富遺跡で出土しており、8世紀前半から中葉のものとされている。本遺跡から出土した他の遺物の年代から判断すると、8世紀中葉頃のものと考えたい。蓋のほか、今回の調査で最も多く出土した須恵器は壺である。破片が多いため時期を特定するのはやや困難であるが、おおむね石見空港予定地内発掘調査報告書編年⁽⁴⁾のⅢ期に含まれると考えて差し支えないと思われる。しかし、SU47は底面を糸切り技法により切り放した後ナデ調整を施されており、遺物の一部には9世紀後半ないし10世紀初頭以降のものも含まれていると思われる。

註

(1)瑞穂町教育委員会『長尾原遺跡発掘調査報告書』1994年3月。

(2)瑞穂町教育委員会『鶴庵原遺跡発掘調査概要書』1995年9月。

(3)瑞穂町教育委員会『いにしえの瑞穂』1995年3月。

(4)地宗寺遺跡及び周の段A地点遺跡。

広島県教育委員会 財团法人広島県埋蔵文化財調査センター『地宗寺遺跡発掘調査報告書』1982年3月。

財团法人広島県埋蔵文化財調査センター『中国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(Ⅲ)』広島県埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書第131集 1994年3月。

(5)中筋遺跡。

財团法人広島県埋蔵文化財調査センター『国営広島北部土地改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書』広島県埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書第152集 1997年3月。

(6)鳥取県教育委員会『石見空港建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書』1992年3月。

(7)鳥取県教育委員会『日脚住宅用地予定地内発掘調査報告書』1985年3月。

- (8)島根県教育委員会『中国横断自動車道広島浜田線予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書IV』1991年3月。
- (9)大田市の白环遺跡で糸切りが施された須恵器とともに出土した木片に延喜9年（909年）の墨書きがあった。
大田市教育委員会『白环遺跡発掘調査概要』1989年3月。

図 版

図版第1

a. 調査区全景
(上空から)



b. 調査区遠景
(北東から)



c. 調査区近景
(南から)



図版第2

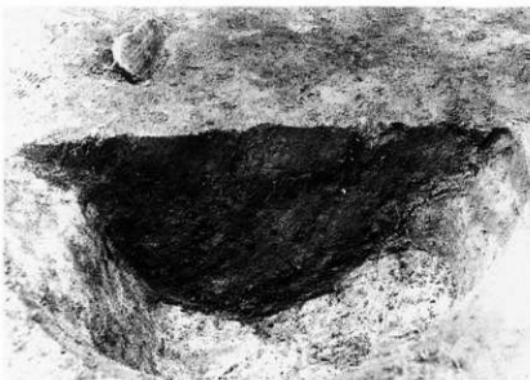
a. SI-01 検出状況
(東から)



b. 同 壁溝中央土坑
検出状況
(南から)

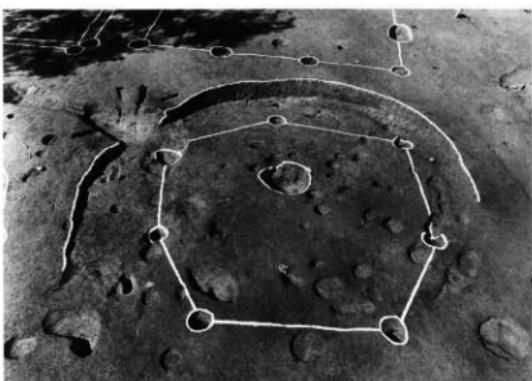


c. 同 中央土坑断面
(東から)



図版第3

a. SI-01 完振状況
(東から)



b. 同 石器出土状況



c. 同 高坏出土状況

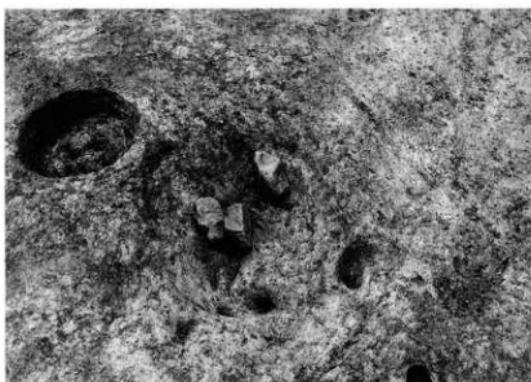


図版第4

a. SI-02 検出状況
(北から)



b. 同 中央土坑完掘状況
(東から)



c. 同 完掘状況
(北から)



図版第5

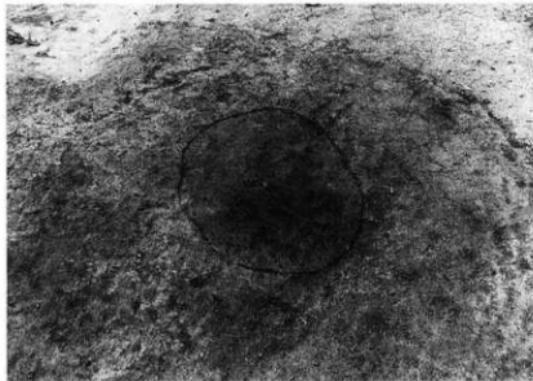
a. SD-05+SK-06
検出状況
(東から)



b. SI-02+SD-05+
SK-06 完掘状況
(東から)



c. SK-01 検出状況
(北から)

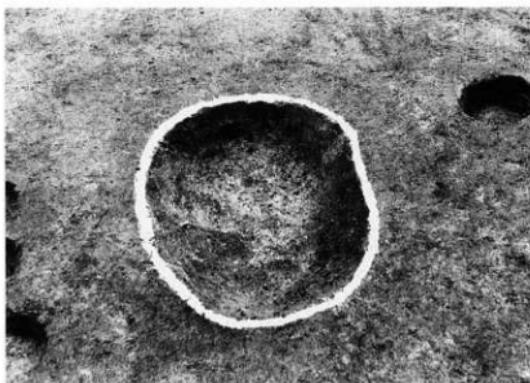


図版第 6

a. SK-01 断面
(南から)



b. 同 完掘状況
(北から)

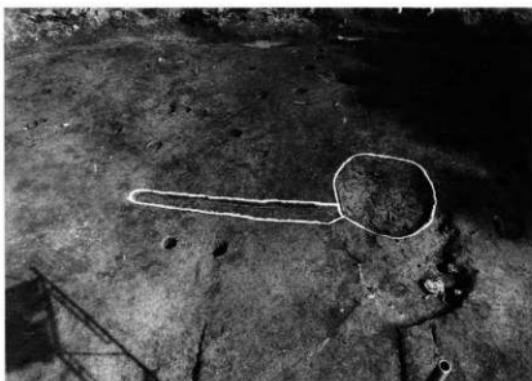


c. SK-03・SD-01
検出状況
(東から)



図版第 7

a. SK-03+SD-01
完掘状況
(西から)



b. SD-02 検出状況
(北西から)



c. SD-02 完掘状況
(北東から)



図版第 8

a. SD-03 検出状況
(北から)



b. SB-01+SD-03
完掘状況
(北から)



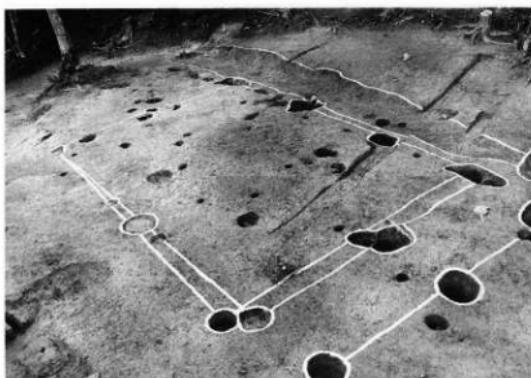
c. SB-01 柱穴断面(1)
(南から)



図版第9



a. SB-01 柱穴断面(2)
(南から)



b. SB-02+SD-04
完掘状況
(北東から)



c. SB-03 完掘状況
(西から)

図版第10

a. 土坑群・SD-06
検出状況
(南東から)



b. 土坑群遺物出土状況(1)
(同)

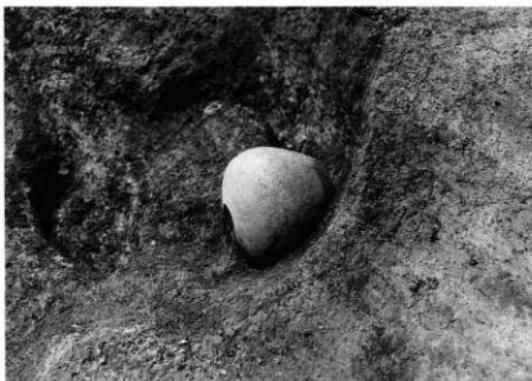


c. 同(2)
(同)



図版第11

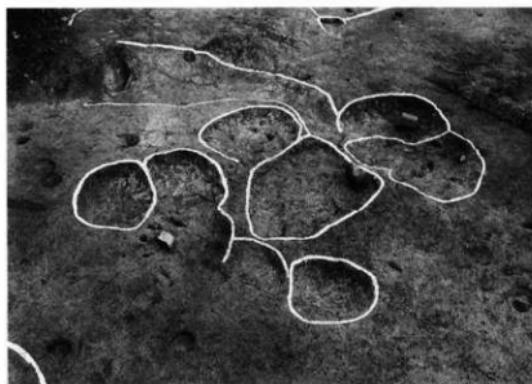
a. 土坑群長頸壺出土状況



b. 同刀子出土状況



c. 同完掘状況
(南東から)



図版第12

a. 鉄滓出土状況



b. SP-01+SP-02
完掘状況
(北から)



c. SP-03 遺物出土状況



図版第13

a. SA-01 完掘状況
(南東から)



b. SA-02 完掘状況
(東から)



c. SK-02 検出状況
(北から)



図版第14

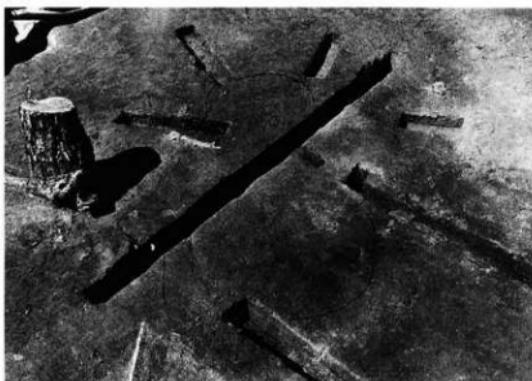
a. SK-02 断面
(南西から)



b. SK-02 完整状況
(北東から)



c. SK-04・SK-05
検出状況
(北東から)



図版第15

a. SK-04 断面
(東から)



b. SK-05 断面
(南から)



c. SK-04・SK-05
完掘状況
(北東から)



図版第16

a. SK-06 断面
(北から)



b. SD-06 検出状況
(東から)

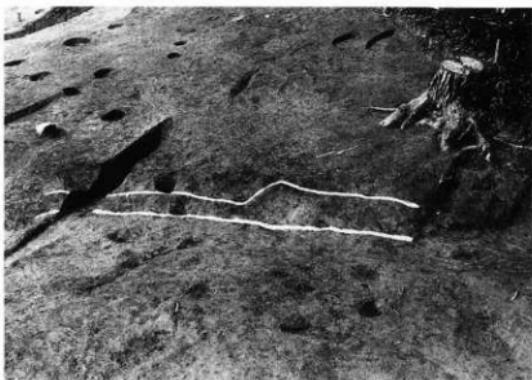


c. SD-06 完掘状況
(西から)



図版第17

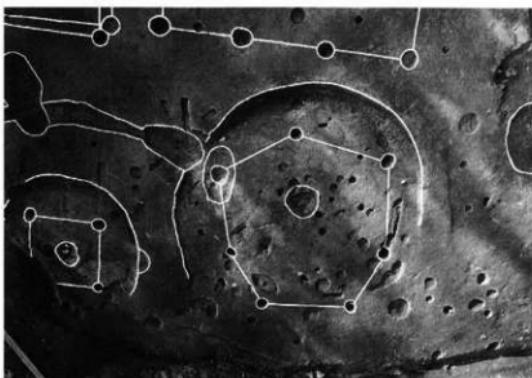
a. SX-01 完掘状況
(東から)



b. SX-02 完掘状況
(南東から)

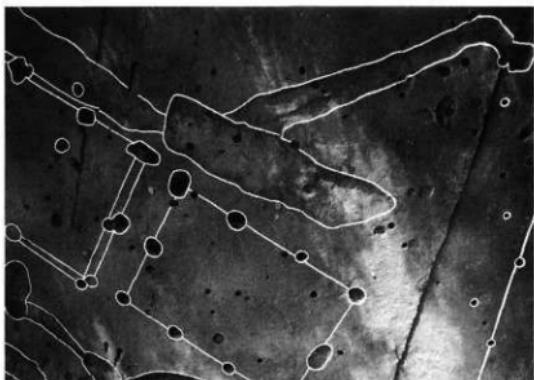


c. SI-01・SI-02 周辺
(上空から)



図版第18

a. SB-01+SD-02
SD-03 周辺
(上空から)



b. SB-01～SB-03
周辺
(上空から)



c. 造構完掘状況
(上空から)



図版第19



a. 捺文土器



c. SI-01 出土弥生土器（外面）

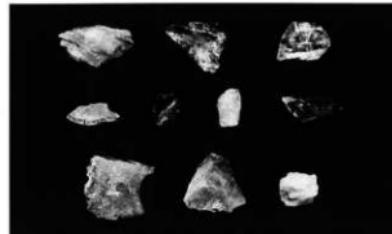
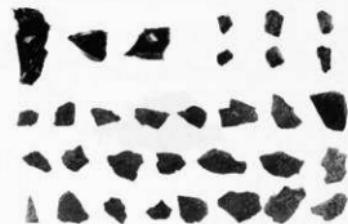


b. SI-01 出土弥生土器（高坏）

d. 同（内面）



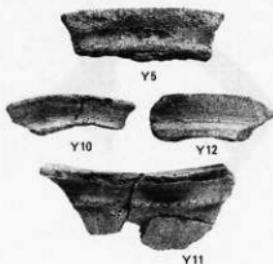
e. SI-01 出土石器



図版第20



a. 造構に伴わない弥生土器



c. 造構に伴わない弥生土器



d. 同



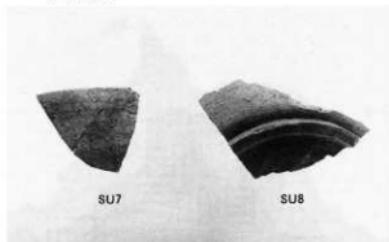
e. 同



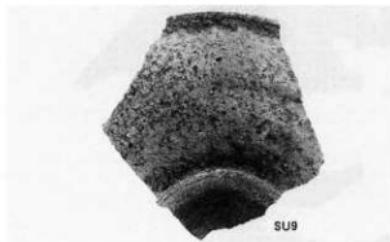
g. 同

h. SB-02 出土土器

図版第21



a. SD-03 出土土器



b. SD-04 出土土器



c. 土坑群出土土器



d. 同



e. 同



f. 同



g. 同



h. 同

图版第22



SU19



SU20

a. 土坑群出土土器



SU21



SU22

c. 同



SU26



SU27

e. 同



SU28



SU30

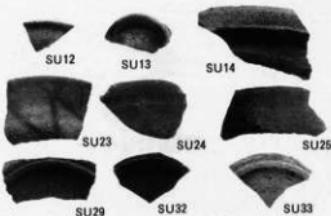
g. 同

h. 同

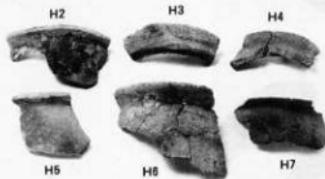
图版第23



a. 土坑群出土土器



b. 同



c. 同



d. 土坑群出土刀子



e. SK-07 出土土器



f. 同 出土铁滓



g. SP-01 出土土器



h. SP-03 出土土器

図版第24



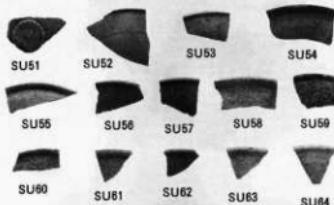
a. 造様に伴わない土器



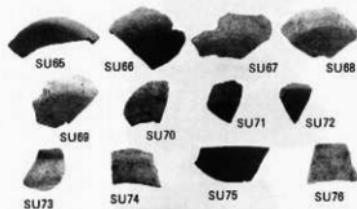
b. 同



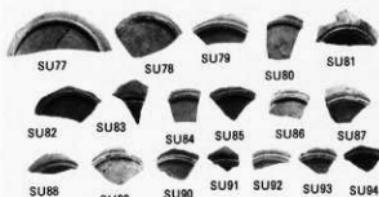
c. 同



d. 同



e. 同



f. 同



g. 同



h. 同

図版第25



a. 遺構に伴わない土器



b. 包含層出土石器



c. 発掘調査の様子



d. 同



e. 遺構説明会の様子



f. 同

報告書抄録

ふりがな	そうろくいせきはくつちょうさほうこくしょ							
書名	沢陸遺跡発掘調査報告書							
副書名	農村公園整備に伴う発掘調査							
卷次								
シリーズ名	瑞穂町埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第22集							
編著者名	藤田睦弘							
編集機関	瑞穂町教育委員会							
所在地	〒696-0393 島根県邑智郡瑞穂町大字一日市32番地 TEL0855-83-1121							
発行年月日	西暦 1998年10月31日							
所収遺跡名	所 在 地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積m ²	調査原因
		市町村	施設					
そうろくいせき 沢陸遺跡	しまねけんおおちぐんみずほちょうさほうこくしょ 島根県邑智郡瑞穂町大字淀原	32445		34度 50分 56秒	132度 32分 32秒	19970528～ 19971130	640m ²	農村公園 整備
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
沢陸遺跡	集落跡	弥生時代 奈良時代	住居跡 掘立柱建物跡 土坑群	2棟 3棟 1カ所	縄文土器 弥生土器 上飾器 須恵器	縄文時代早期の押型文土器採取		
						弥生時代中期及び後期の堅穴住居跡検出		
						奈良時代の掘立柱建物跡検出		

平成10(1998)年10月

島根県邑智郡瑞穂町

沢陸遺跡発掘調査報告書

農村公園整備に伴う発掘調査

編集・発行 島根県邑智郡瑞穂町教育委員会
印 刷 柏 村 印 刷 株 式 会 社